

一 關白泡方杉折りくじし上クク

廿七日

一 今朝宰相典侍泡上り今日准后泡方精進解の肴一折三種上クク
こちより肴三種クク今日屋根出来に付巳刻ころ申す
と入彦成儀奏え入彦成クク申事申出儀奏衆修理し奉行え肴出
る傳奏しゆえも同断出る非藏人えも肴出る

廿八日

一 朝也盃者此間伺の三人のし二度目の伺筆頭え心の申渡ス
一 儀奏衆えハ明日仰出され
一 内侍所來月の神供少將内侍泡の仰出され今晚あうしんニ附備へ
上る膳ハハ出るはくし取らざるはつ本もぬんさく文こ
上る儲君泡此間本泡上りニ附表方ちえりゆ下されはや伺有是ハ
ハまの泡内ハ此事ゆへ此度被下無仰出され

廿九日

一 今日儀奏衆え來月七日巳刻新ハし二度め伺仰出され申渡されへそ
也請有

八月朔日

一 彦拜有朝也盃神供少將内侍泡の氣向ふの初穂金百疋系る
一 朝りをの別當典侍泡少將内侍泡れとぬ
一 准后泡方朔日の肴一折上クク
一 儲君泡方同断上クク彦所よりハえんさハ准后泡方ぬもの祝
儀仰入の金三百疋泡内ハ文こ一もこ上クク儲君泡よりそい
人形五十組薄るう二十帖泡内ハあふるハ花生は薄板上クク
一 敏宮泡和宮泡夢宮泡より金三百疋つゝささい一も宛上クク近衛
泡方泡内ハ机一箱泡きん上儲君泡え燈籠一箱えんさのハ大すき泡

此初大乳より

一此重一組きん上長橋泡より此組帯引合一そく進上少將内侍泡此初今系
る越後るより此文こ三ツ進上能登る初より侍あしの此文こ二ツ進上
此兒此兩人か一番文こ壹つ、進上三仲間此皿此多この物進上關白泡此
初親王宮泡るこの法親王泡攝家此門跡黒彦所之此無住の此室より此祝儀
進上

一此いよりきん上物有

一觀行院泡此初蓮觀院泡此しめ梅仙院泡此初知光院泡此しめより此
祝儀金百疋つ、進上兩御藏よりきん上物例之通り有織君泡たし君泡松
宮泡より此祝儀上クのく、る此礼申入長橋泡此心とへ衣にて參内殿
之此廻り之

一上涉靈の茨子泡此鈴上る

一關東より此馬きん上之所此とく日にて今日ハきん上無明日きん上之

一准后泡儲君泡え大すき泡此初なり橋泡大乳より金二百疋つ、上る少
將内侍泡今系る越後るか一二の此文こ一折つ、進上能登る伊賀る駿河
との此兒此兩人か金百疋つ、進上儲君泡え三仲間か
一きん上致申され此敏宮泡和宮泡孝参宮泡かをこの一とこ金二百疋宛儲
君泡えまんのこの准后泡か此みかひ桶此内、此辨當一とこ儲君泡えま
んのこの

一涉所え内侍所か三種一荷者此茶目ん一折きいより進上此文こ一折刀自
三人一家女采カかきん上准后泡え此返し金五百疋此内、此をき重一とこ此
使此下さち

一儲君泡え此返し半金二枚者此内、あふく此硯箱一とこ者此使此下さ
ち近衛大納言泡え此内、まこの此硯箱一とここの

一儲君泡花の此さんさくりき者こあさにて遊しまんのこの

一敏宮泡和宮泡孝参宮泡え此はえし一疋此返し五百疋つ、

一 關白泡初親王宮泡法親王泡り、黒彦所之例之通り泡りへし出る泡
 附_下兩人泡太刀一腰泡馬代銀一枚つゝきん上出合大泡乳口祝有泡返し
 泡ある五ゆひ泡太刀一こしつゝ下されは大久保ハ關東參府中ゆへ泡附_下
 より傳へぬ様と戴さるは

一 今日所司代所勞にて不參之

一 儲君泡礼之成泡重看之泡盃系るはく和しも出る

一 儲君泡大すけ泡初長橋泡大泡乳之泡返し金三百疋つゝ少將内侍泡
 泡初今系る越後ぬえ二百疋つゝ能登ぬ始え泡兒泡兩人え二百疋つゝ百
 疋つゝ三仲間一采女え泡返し被下は准后泡大すけ泡初なり橋泡え
 杉原十帖金二百疋つゝ大泡乳にも同斷

一 少將内侍泡初二百疋つゝ引合一ふくつゝ泡兒泡兩人え同斷

一 儲君泡參宮泡より藤のこを被下は准后泡泡祝廻り戴は今日上りは
 杉原一あさり末をろ一本引合一ふくぬぬりのあう尺文こ二番文こ一

壹つ水引二包小筆の多てはそさみ箱之入泡ちりと申尾張え戴は三仲間

一 内侍所さ初泡返し百疋つゝ被下は

一 夕方泡盃三献有は三こんめ長橋泡泡酌之女中男りさ泡通り有
 はく和し

むさし登

一 泡盃之系りはまゝにて今日泡返し戴は

一 大すけ泡初大泡ちえ銀三枚つゝ長橋泡え銀三枚之外之二枚泡ある三ゆ
 ひ被下は少將内侍泡初今系る越後ぬえ銀二枚半能登ぬ初伊賀ぬ駿河と
 の泡銀二枚宛泡兒泡兩人え泡取の二ゆひつゝおくは泡より泡文まこの
 外入進上泡返し三百疋被下は薙髪の方々に二百疋つゝ泡返し出る三仲
 間の薙髪の衆え百疋つゝ泡返し被下は

二日

一 彦拜有今日故宰相典侍泡三めぐり之附_下大すき泡新大すき泡より金百疋

つゝ宰相典侍泡初より金五百疋は香てんこ上る使ハ長とし泡の侍系る

三日

一 彦拜有内侍所之當月の系りは初穂銀一枚系る新宰相泡え

一 節句兩度はあまの返し二百疋つゝ中元の祝儀銀二枚は一所に被下は

一 参差宮泡は節句兩度は提灯の返し八さくの返しは一所に衛門内侍泡え被下は

一 今日觀行院泡は礼の所は所勞にては不参三仲間衆は礼申入は申口を口祝戴さりをは故宮泡の薙髮の衆は礼申口にては口祝は認盃有はくもしも戴さりをは

一 今系る來ル十一日によは仰附のは内意仰出されは知定事誠を難溢にて盆暮に一兩つゝはすくひ願出願之通り出されは尾張え渡す

四日

一 今日儲君泡來月下句立親王宣下仰出されは表え駿河とのを仰出されは女中一統え長橋泡は申渡之は祝申入は三頭え大乳申渡す口向ハ取次え駿河との申渡さるゝ儀奏初は追々御祝申入のゝ准后泡え長橋泡は使を仰系る儲君泡えハ准后泡は傳へに成りのゝ准后泡儲君泡は礼仰入のゝ使をり松泡は系り

一 女中一統准后泡儲君泡えは祝を系るは口祝有三仲間の衆もは祝を系りの今日儲君泡は繼代後泡は礼を成三種三荷上りのゝ是ハは礼を成ふをのゝは時分をり松泡よりは口上をる上りのゝ立目錄書るをのゝ

一 常彦所にては盃は三こんをり三献天酌にては戴るをのゝ濟りのゝ天酌にてはをり松泡えは盃給ふ

一 一之は間にては吸物も重肴にては盃をりく和しも出るは前をりは辨當一箱をんをのゝをり松泡は乳人をはり衆は供之は祝酒出るはくをりしも有若よしゆえも同斷下されは

一儲君泡え此夕膳えんをのく所何りとくおそく成ふせのく夜しよ
くニえんをのく此繼代儲君泡治定ニ附所司代より此祝ニ二種一荷き
ん上此附兩人を此肴一折つゝきん上

一此肴一折小堀勝太郎よりきん上するく一折取次一統賄頭より勘使一
統小間使中使番頭此花さん奉行日記鍵使中奏者番中かするく一折き
ん上大すミ守高橋兩人よりするく一折此茶引修理し支賄中板本中土
佐繪司三家後院勤番中佐々木刑部丞としめよりす託く一折きん上伺
え此し一同か此肴一折きん上

一今日きん上物致ゆへ取次初口向一統此し後院侍中此祝酒下され此
准后泡取次以下侍分上臈此初三之間まで儲君泡か此祝酒下され此

五日

一明日泉山え此代香此表え仰出され此

六日

一泉山え此代香此表か此香此花者

七日

一今日二度目伺しん

- 福井 三河守
- 高階 筑前介
- 久野 長門介

一誘引藤木近江守此するくと濟力のく此三度目の伺有又おつて此沙さ
と仰出され此儀奏衆に申出る准后泡此度

- 高階 筑前介
- 此園野 丹波守

伺仰出され此事筆頭え

涉所方仰出されは涉所伺相濟し人々ゆへ傳奏えハ仰出されは筆頭之申
渡ヌ血判も無

一妙勝定院宮泡方は杉折ゆくとし上クの

八日

一和宮泡え涉用ニ系長橋泡辰半刻比方は系り言傳ニ比よを肴五しゆ硝
子比皿五枚は取り一對系る長橋泡方は肴三種進上藤比乳初えも比
や有

一瑞龍寺泡は礼ニ成は燈籠一箱比まん一組上クの運觀院泡信敬院泡觀
實院泡長春院泡は礼ニ系のの外ノ不系ニ

一瑞龍寺泡は對面成はすは重肴ニては盃系る運觀院泡比てしめは對面
成はすは重肴ニては盃給ふ申口にては認は一こん被下はゆくとし出
る月を以ては礼比口祝は認ゆくとし出る次尼衆えは認ゆくとし戴さり
を以三仲間薙髪は礼申入は口祝戴さりを儲君泡敏宮泡和宮泡夢夢宮

泡え瑞龍寺泡より比ミや有儲君泡方は袖入よは水入をの小花生系
る

一敏宮泡和宮泡方は袖入すは多う望んをの是ハこあニて致上は
こあよりははれは煙草入二組はをまを一本とかの比文ちん一紙包
ニてクの初夜比は退出ニ

一靈りんしの宮泡ハはきんさい所は成ふセのゆへは礼の比沙ハ無

一儲君泡立親王宣下九月廿八日巳刻トは治定仰出されは長橋泡方大すき
泡初えは申渡は祝申入は儲君泡えは祝ニ系る比口祝有は附取次え大は
乳申出る三頭えも申渡ス

九日

一今日心淨院泡初知光院泡玉蓮院泡は系り心淨院泡ハは不系は對面成は
まは重肴ニては盃給ふ申口にては認一献ゆくとし出る准后泡えもは
系り

一 黒滂所之ミカノ不系之口の薙髪は礼口祝いさゝるを以

十日

一 儲君泡の比小性三王社司樹下三位娘見えめ有申口板之間え系れり
く和し出るは紙入二ツ平打りんさし一本被下は

十一日

一 滂拜有今日今系な事伊与ト名を下さるゝは礼申入り看一折進上准后泡
儲君泡は礼ニ系れり敏宮泡和宮泡孝翁宮泡えは礼申入りみ出る
一 表口向えも仰出されは尾張えも申渡ス里方よりもは礼有
一 法中參内小滂所は出滂成は對面成

十二日

一 滂拜有伊与ぬ日柄よく今日は礼申入りこ和^{滂脱カ}一多は看一折はてう
し一枝きん上
一 准后泡儲君泡えこ和り一多は看一折とむ之敏宮泡和宮泡孝翁宮泡

えこ和く滂一多ははれし進上關白泡仁門泡梶井泡輪門泡は二り泡え
こ和くは一多はつゝ進上輪門泡ハこんぬ之此外く和し文事ハ大は乳局
みとめ有

十三日

一 泉山えは代香は表方は香は花看放生會は神事にて夕りさ々新大すき泡
長橋泡は下りるきに和宮泡え滂用ニるは系りニ附^下は言傳み水さんまは
十日まんのり宰相典侍泡手あしにては下り別當典侍泡同斷衛門内侍
泡る多丸な多くニるは下り
一 孝翁宮泡來ル十六日辰半刻は參内の事仰出されは伊与ぬ知行所は引
りへ米の願書長橋泡え上クのり

十四日

一 今朝准后泡は月水にては下り新内侍泡は下り准后泡えは尋ニはよは看
るは下りの事は表口向は仰出されは夕りさは丸火入ニ附^下内侍所えは鈴

宿此そつを銀一枚者くしの湯行水有

十五日

一 此神事此當日此なる卯刻ニ二刻前辰刻前奏聞内侍泡申系る内侍泡此無人ゆへ宰相典侍泡此廻り之

一 石清水此法樂有此小座敷にて讀上ケ有此表の此庭にてすゝめそ堂も取され此

一 今日八幡りけ例之此通り有四重之此重に金五百疋入

一 儲君泡方三重之此手さきに金二百疋入上クのくはあさにて出來此

一 大すき泡初より此りき物上る

一 名月ニ附^つ此与ぬより此乃九こんきん上准后泡儲君泡敏宮泡和宮泡孝翁宮泡えい^い与ぬ多み^みを^を上^上の^の

一 准后泡此下り中ゆへ多^多は^はて^て上^上の^の

一 儲君泡えハ局初口上にて系る大すき泡初より松泡初お八百泡初上^上の^の

夕^夕り^りさ^さは^はく^くし^し取^取ら^らふ^ふを^をか^かし

一 こよひの此盃一こんきん月覽清涼殿え出^出成女中計此通り有

一 内侍泡^泡を^を取^取く^く此下り^{下り}ニ^ニ系^系大^大此無人常丸^丸此り^りそ^そり^りニ^ニ髪^髪を^をか^か直衣^{直衣}ニ^ニて^て常^常湯^湯所^所此^此さん^{さん}の^の此手長^{手長}ニ^ニ系^系り^り此盃^盃も^も同^同断^断之^之

十六日

此神事解儲君泡准后泡より此乃取一折つゝ上クのく准后泡此上り此をか上クのく辰半刻ころ

一 孝翁宮泡此幕^幕え^えさ^さり^りにて^て成^成ふ^ふセ^セの^の此供^供此世話^{世話}卿堀川^{卿堀川}三位^{三位}此叔世院^{叔世院}此お^おは^はつ^つぬ^ぬを^をり^りま^まし^しゆ^ゆ此用掛^{用掛}り^り此ヒ^ヒ三^三仲^仲間^間此供^供之^之

一 宮泡方此肴一折五種上クのく此對面成此世話卿堀川三位^{三位}此え^えは^はく^く和^和し^し一寸^{一寸}く^く九^九も^もし^し此表^表え^え出^出る^る叔世院^{叔世院}此初^初の^の此く^く和^和し^し此認^認九^九も^もし^し此局^局え^え廻^廻し^し此今日^{今日}此初^初の^の此系^系内^内此え^えぬ^ぬ一^一疋^疋五百^{五百}疋^疋三位^{三位}此叔世院^{叔世院}此え^えは^は絹^絹一^一疋^疋ニ^ニ三百^{三百}疋^疋此え^えぬ^ぬ一^一疋^疋ニ^ニ二百^{二百}疋^疋刑部^{刑部}大^大輔^輔此赤地^{赤地}嶋^嶋縞^縞子^子の^のお^おも^もし^し計^計一^一お

あけぬ白縮緬一卷二百疋八重岡家來一統え銀三枚被下は宮泡退出の時
時分は人形一とこ皆堀川なえは着五種被下は供は糸りのは通り三仲
間も糸のくはするくくとは退出の事は表口向えも仰出されは
學修院中丁をへく和し出る

むさし警棒もち

は備へ来る

十七日

一來ル廿一日はせり仰出されは今晚まゆふひ有

十八日

一 涉靈社は祭りニ附上下涉靈社えはそつ奉金五百疋つゝ使番にては今日
は祝のこおくは
一二重つゝま司入道准后泡えは關白泡えも同斷新大すき泡のはちみこ
て来る儲君泡准后泡えは祝ハこかえ成ふをのくは時分ニ出はぬり松

泡初えは下をは重ニ入はて下されは敏宮泡和宮泡孝善宮泡はは祝は重

ニ入大は乳の多にては廻し申は

一 是夕は膳ニは祝出る大すき泡は初は目通りニをは戴は之申刻過は拜に
准后泡え成ふをのく構尺は文この内ふ銀地つゝれは紙入一組はまを
一本花のは文ちん一ツ入来る儲君泡え二番は引さし附は文こ之内ふは
煙草入二組は袖入にてはちよく二ツ入は准后泡は出涉ニ附はよをさり
取五種上クのは儲君泡よりハ何れく上クのは准后泡にて夕りさは一
こん旨女中一統えもは前にては一こん戴ははおせりのまゆうひは覽こ
入クのは入御家は時分准后泡は薄板二枚上クのは
一 儲君泡よりハはきん上物無

十九日

一 今晚おせりはまゆふひ有

廿日

押小路甫子日記

一と罷し無

廿一日

一今晚におせりてあつをのし申刻ころより蓮観院の観實院の心淨院の
 知光院の蓮正院の玉蓮院のよりお着進上有
 一信樂院の妙染院もその見に糸のし近江守始九人その見願を拜
 見有

廿二日

一蓮観院の初は逗留にて植雪の茶屋にて一こん下されは暇の時
 分蓮観院の初は煙草入の形はれもし入はちよくふふへ人別
 下さるゝ
 一信樂院のハ一兩日逗留の大乳をハリりてお引居長橋なてもしは一
 先くりの附はせん二組は尋て大すき初は来る

廿三日

一仁門の行中に見舞みちまた百把奉書にて来る
 一いよる此度おろ先例の通り願出る今日長橋の局より出る

廿四日

一涉も有賀茂下上の法樂の小座敷にてあつをのし出涉成讀上ケ有

廿五日

一妙門のいろな袂しに附小いよる一ちお着一折上ケのし
 一涉所お着一折奉書にて着
 一伏見兵部卿宮のお傳への様仰系る儲君のお着一折着
 一儲君のお着一折使番の使にて着
 一敏宮の和宮の壽善宮のおい一そこ宛系るお使番
 一あまの宮のおあまをうしを願中ゆへ外に何もえんせん物は沙
 無

廿六日

一 泉山えの代香長橋の系向は香の花者知門の聖門のこゝるうし
願關東より濟來はよし傳奏より申入の

廿七日

一 今朝長橋の上り之今晚

一 准后のとおとりニ附准后の肴五種上クの夕らより出淨成をん
飯ふ竹の花生系る儲君のえの硯一の志をり一枚毛うへの文こ入る
夕らニ准后のたそん廻り戴は

一 知恩院より宮のこゝるうし願之通り仰出されは母儀少將内
侍のえ仰附の右の事世話卿儀奏衆え仰出されは口向ハ右京大夫ニ
あ仰出されは

一 關東のちぢうし願出願之通りと仰出されは樹下新三位の女おさた
儲君のち小性こめし出されは

一 今日上られは准后のこゝる小性ニ仰附の名ハそのまゝ之御所に礼

ニ系の口祝大乳致は何も下され物無儲君のえむ一折きん上之
世話親のちの人

廿八日

一 朝の盃者内侍所神供少將内侍のえ仰出されは今日聖門の附弟のこ
あゝるうし願之通り母儀別當典侍のち世話卿え仰出されは別
當典侍のえ長橋のち仰附のち里のちえも吹てふて請礼の申
入有少將内侍も同断之宮のちの長としのち吹てふ有

廿九日

一 聖門のち礼仰入のち杉折はくあし上クの今晚より

一 例幣のち神事入夕ら手あし服しや出さるゝ大すきハ所勞をちハ
りりは湯遊しりちのち下り新大すきはち多くは清め遊しり
ち下り之

九月朔日

一 御まゝ有神供少將内侍泡_は系向まふの_はもつ本百疋系る朝_は盃_は参
 賀_は対面成朝_りをる宰相典侍泡_は少將内侍泡_は能登_なぬ_ぬ
 一 儲君泡_は准后泡_は方_は祝儀仰入_れぬ_ぬ肴一折つゝ上_はク_は中務卿宮泡_は方_は御
 機嫌伺_はク_は肴三種上_はク_は夕_はる_は盃_は三_はこん_は肴_は三_は献_め
 少將内侍泡_は酌_は女中男_りの_は通_り有

二日

一 御まゝ有近衛大納言泡_は一寸_は之_はく_は引茶_は旨_こよ_は別殿小_は淨所_は
 出_は淨成_は盃_は三_はこん_は肴_は少將内侍泡_は酌_は女中男_りの_は有_{脱アルカ}

三日

一 御まゝ有儲君泡_は准后泡_は淨領所の松_はき_は旨_は使表_は使_は之

四日

一 和宮泡_は淨領所の松_は茸_は系る_は内_のの_は布_み之

五日

一 准后泡_は淨領所の栗_は旨_は系_り中_にて_はこ_さこ_さて_は申_入之_は有栖川帥宮泡_は
 方_は肴五種上_はク_は大_すき_は泡_は湯_出來_は局_まて_は上_り之

六日

一 今日_の泡_は代香_は沙_は無富小路二位_は方_は庭_に出_來は_はい_をき_ん上_之

七日

一 淨拜有富小路二位_はより毎々_はろ_くき_ん上_申され_はゆ_へつ_はれ_は紙
 入_一組_こよろ_しま_はま_を托_そへ_下され_は

八日

一 准后泡_は儲君泡_は菊_日の_はま_をの_は使_下さ_ち和宮泡_は菊_を旨
 小菊も_系る
 一 關白泡_は小菊奥_のの_はま_をて_旨
 一 敏宮泡_は引籠中_にて_はま_をの_は無_靈らん_しの_は宮泡_はま_をく_を旨_を系_る

夕りさの盃一献系る女中計り通り有菊みはさく和の先さをくの准后
泡女中衆先さを男りとも同断めさを申さた

九日

一朝の盃者朝りむる宰相典侍泡少將内侍泡以賀ぬ
一参賀参對面成准后泡か節句の祝儀仰入の二種一荷上くの儲君
泡か看一折上くの所より

一准后泡えはさを帯はたよこれちく系る使右京大夫者
一儲君泡えは絹一疋取り看使同人系るちの人より口祝引二百
疋下されは和宮泡参参宮泡えは絹一疋ある系る敏宮泡えハ引籠中
ゆへくの後宮泡りさかさい一箱つ上くの儲君泡は礼み成せぬ
口祝は重看にくは系るはくおしも出る大乳かすた一折上る
今日参會は人数詠進有夕りさ花鳥の間にて一こん出る女中も前
にては戴はぬ

一修覺院より松茸上る和宮泡え系るこよひの盃三献は三こんめ少
將内侍泡酌之女中男りさ通り有は小盃も女計り通り有

十日

一泡菊おは附兩人え下されは泡上之を壹つ添黄白之
一夕りさ丸火内侍所えは鈴系るは初穂銀一枚はくしの湯は行水者

十一日

一参當日は心卯刻三刻前辰刻ころ出参成刻きん出る程のふ入参成その
まに

一内侍所えは系り有は初穂銀一枚は看一折看は供按を拂のすき泡少將内
侍泡大は乳系るは祝酒戴ははたよと入参成は丸火解の今日の
くし四重のは重に銀二枚准后泡儲君泡はくし上くの参参宮泡より
もはくし上くのく大すき泡初よりもは空し上る夕りさはくし取有

十二日

一と取し

十三日

一 涉神事解のし手あし服しや上の、當月六日今日の代香此間を宰相
典侍の手あしにて下り今日里りさか代香より香は花系る
准后の儲君のし神事解のし肴一折つゝ上の、所は日柄にて明日上
の

一 聖門のし神事解に付は花上くのこよひ名月を附いよぬか福乃九こ
んきん上准后の儲君の和宮の孝善宮のし上の、大すき初より松の初
お八百の初進上こよひ月の覽出涉は沙の無は表え仰出されは盃一こ
ん系る常涉所をさしをる月の覽をの、女中衆も見た

十四日

一 准后の儲君の昨日は肴一折つゝ上の、今晚より
一 春日社外せん宮木造初日時定は神事入服しや出さるゝ手あし局引は膳

のし火計よかり過かは清火に成

十五日

一 岩清水の法樂小御所のし出涉成讀上ケ有春日社外せん宮木造初日時定陣
有巳刻ころ奏聞内侍のし廻りふとへ衣之午刻過陣濟くの、事説カ神解のし
服しや上の、手あし出の、妙門さつの宮のこあさるうしは母儀衛門
内侍のし仰出されは右之由儀奏しゆは世話卿え仰出されは口向え右京
大夫を仰出されは宮なりさえ吹てふ有

十六日

一 今日の小座敷にて御用談のし跡にて儀奏衆えは一こん給りは此度廣觀
院の八十の年賀に附
一 此涉所のしちん一重の肴一折はきん上右に附銀三枚白會の文こ之内
に紅一疋は人形壹ツ三枚重は盃一組紫縫取は煙草入一組は袖入一ツ
は煙管一本入被下は

一 此等ちん一重此れし三頭泡するりとの大此乳の下されは右に附此よ
お香此精進より五種上る同断按察使典侍泡此初系る右に附三種の此
香

一 儲君泡え此等ちん一重此のし進上此返し金貳百疋下されは
一 和宮泡等参宮泡え此等ちん同断進上此返し此かる二ゆひつゝ下されは

十七日

一 知恩院隆宮泡御養子此弘メに附二種一荷上クの右に附生さい一折此
口上にて取次此使之

一 儲君泡えも同断系る此返し生さい一折非常附使番系る

一 和宮泡等参宮泡え此さい一箱金貳百疋つゝ此返しするゝ三連つゝ

一 折此非常附使番

一 此所え兵部卿宮泡此看一折上クのこあよりも此看一折奉書にて
此三頭泡え此さい一と此樽代貳百疋つゝ此返し此さい一箱引合

十帖つゝ進上駿河との大此乳はするゝ二連金百疋つゝ此返しす此

二連つゝ上るするゝ十連千疋按を端のす泡此初此兒此兩人え此

返しするゝ十連進上三頭えも百疋つゝ被下此なる松泡此ちの人かこ

む一折つゝ上このあを引合十帖なる松泡此ちの人えするゝ三連

此

一 今日此使ハミ取ゝ此里坊に系る

十八日

一 今日上下此靈社北野平野此代系するとの系

一 敏宮泡此引籠中此見舞仰えんをのゝ此く此し一折表向の此寄みにて系

る

十九日

一 賀茂下上此法樂小此所に出此成讀上ケ有敏宮泡此引籠中此機嫌伺

女中一統を此らう二組上る修學院を松茸上る寂靜院泡信樂院を被下

は

廿日

一と取し

廿一日

一 涉拜有内侍所^ハ法樂小涉所^ハ出涉成讀上ケ有竹田^ハ代系右京大夫系^ハ

廿二日

一 儲君^ハ祝酒生日ニ附内侍所^ハ鈴^ハ初穂金百疋系^ル

一 上涉靈社ニ同断系^ル

一 涉所^ハ小戴三百^ハてうし一枝^ハ肴一折^ハ目錄書有

一 准后^ハ泡え小戴二百^ハ肴一折系^ル

一 敏宮^ハ泡和宮^ハ参宮^ハ泡小戴一多^ハつゝ^ハのし關白^ハ泡入道准后^ハ泡え小

戴一多^ハ肴一折^ハつゝ^ハまんを^ハの^ハ小戴一多^ハ宛

一 三頭^ハ泡大^ハ乳^ハ按を^ハ猪のすき^ハ泡初^ハ小戴一多^ハふり松^ハ泡初^ハ小戴百

一 吸物^ハ祝酒被下^ハは^ハまも入三卿^ハ祝酒^ハ祝酒^ハ附兩人^ハ用掛り取次
伺え^ハし^ハ祝酒被下^ハは^ハ賄頭^ハとしめ^ハハ小戴^ハ汁下され^ハは

一 涉所^ハ儲君^ハ泡え^ハ肴一折^ハ内^ハは^ハよささ^ハり^ハ三種^ハク^ハの^ハ使^ハ下^ハち

一 肴一折^ハ表使^ハの^ハ使^ハ之^ハ准后^ハ泡え^ハ初^ハて^ハの^ハ誕生^ハ日^ハゆへ^ハよさ^ハ肴五種

一 精進^ハち^ハり^ハ之^ハ使^ハ下^ハち^ハて^ハ旨

一 准后^ハ泡え^ハ肴一折^ハよさ^ハさ^ハり^ハ取五種^ハ上^ハク^ハの^ハ儲君^ハ泡成^ハふ^ハセ^ハの^ハ口^ハ祝

一 重肴^ハニ^ハ肴^ハ盃^ハ肴^ハく^ハ和^ハし^ハハ^ハ出不申

一 儲君^ハ泡え^ハ三頭^ハ泡大^ハ乳^ハより^ハする^ハ三^ハ蓮^ハつゝ^ハ上^ハる^ハ按察使^ハ典侍^ハ泡^ハ初

一 する^ハ五^ハ連^ハ進^ハ上^ハ今日^ハ上^ハク^ハの^ハ小戴^ハ先^ハ附^ハ出来^ハ兩^ハ役^ハの^ハし^ハゆ^ハえ^ハ出る^ハ夕

一 一^ハこ^ハん^ハて^ハ販^ハと^ハ之

廿三日

一 御樂文所^ニる^ハ當座三十首^ハふ^ハを^ハの^ハ出涉成^ハは^ハ和^ハし

菊の下水霜紅梅

押小路甫子日記

- 一 知恩院ゑりの宮を關東ゆうしむる先を附こゑより二種一荷殿上人にてクの儲君をより一折は用掛り取次使にてまんとけし和宮を孝考宮をよりするく一折三蓮つゝ取次使に三頭ををさし一もこ宛引合十帖つゝするゑとのよりするく二蓮上クの大乳よりまるとるく三蓮上る知門をよりハ
 - 一 明日はきん上物下され物系り由之
 - 一 知^{門脱カ}所司代を關東の上使有右に附こ取さるゑや三卷詠歌大概一箱被下は様を廻して
 - 一 外に半金三枚代金六拾五兩は入用には是ハ前日は世話卿廣橋をのむの口にて大乳は渡シ申は
- 廿四日
- 一 妙法院教宮を此度こゑの養子に附むる先は太刀一腰馬代銀一枚二種一荷上クの

- 一 儲君をえ二種一荷まんとけし
- 一 敏宮を和宮を孝考宮ををさし一もこつゝは湯所より一折取次使にるが儲君をを一折系る敏宮を初よりすはく三蓮つゝ非常附使番にて
- 一 伏見兵部卿宮をを一折進上織君ををさし一箱はきん上之
- 一 兵部卿宮をを一折奉書にて系るは三頭大乳ををさし一箱つゝは樽代二百疋つゝ按を請のすきは初するく十蓮は樽代千疋系る駿河とのえをさし一箱金百疋
- 一 三頭大乳ををさし一箱引合十帖つゝ上るはを請のすきは初よりするく十蓮上るゝ御母儀
- 一 衛門内侍を紅白ををさし二卷代金五百疋二種一荷は樽代二百疋
- 一 衛門内侍を二種一荷返して
- 一 知^{門脱カ}關東ゆうしむる先を附は太刀一腰馬代銀一枚二種一荷上クの

三頭泡大乳えむさ一箱金貳百疋つゝ系るするりとのえするく
一折三連金百疋系る按を控のすき泡初ハ何も系り不申

廿五日

一涉拜有内侍所ハ當月の系りあふさのし鈴着は着一折系る泡初尾銀一枚

廿六日

一泉山え泡代香は表方泡香は花着

廿七日

一准后泡を明日泡りはい出来は長橋泡大乳てい見を系る准后泡儲君泡成ふせのし

廿八日

一今日親王宣下時刻已刻之涉所を陣有准后泡より三種一荷別段泡盃臺一ツ泡内と思しめし泡をてめて度七種の泡着泡折上クの立目録書

有は使泡八百泡申口にて泡口祝泡祝酒はくおし泡引金貳百疋被下はそへ使え金百疋戴りをん

一儲君泡をこかく涉三荷泡着泡折二種一荷上クの立目録書にて泡使えり松泡申泡間にて泡口祝泡祝酒はくおし泡引貳百疋下さたそへ使え泡引百疋戴りをん

一涉所方儲君泡は泡太刀一腰泡馬代半金三枚鶴一羽するく一折泡こんぬ一折立目録書有は使長橋泡系り之關白泡入道准后泡え生さい一折つゝ上卿二條泡え泡着泡折着いつきも奉書を泡着内侍所え泡着泡折泡着はくは泡着泡折着和宮泡より泡着泡折上クの泡着宮泡が同断上クの泡着敏宮泡ハ泡引籠中にて後日上クの泡着准后泡えも同断上クの泡着儲君泡えも泡着泡折宛えんをの今日泡式已刻午何りとく未刻過を成ふクの泡内と出涉成クの泡着准后泡も成ふをの關白泡は父子泡世話泡遊し泡するくと泡式濟クの泡着入涉成是より親王泡え申あをん

出湯の時分准后泡を親王泡方上クク、赤飯吸物羽をりたま、
 此口此湯所親王泡准后泡一所に出る
 一 此夕膳は祝膳は吸物附親王泡准后泡一所に出るはく和しむは
 口切の通り下さち持系、口祝も出るなり司入道准后泡方由
 をさり取一折内、上クク
 一 關白泡方青籠の肴上クク、入道准后泡え青籠七種は肴は名酒二樽祝
 の龜内、玄は多て茶る關白泡え五種の肴は手福ふり一、こは内
 のは多て茶る湯所えは三頭泡駿河との大は乳は肴一折立目錄を
 系上るは肴一折を按を地のをき泡初おは泡兒り、立目錄を
 進上親王泡えは三頭泡は手福するとの大は乳より生さ、一折つ、中
 るり目錄書て上る按を地のをき泡初よりは肴一折をおくは泡兒
 は兩人より進上立目錄書有准后泡えハ大すき泡初おは泡兒り、
 一所は肴一折を上る目錄ハ無親王泡えは三献板本廻しは祝儀被下

は申刻ころ親王泡殿を赤盃三こん旨いせんなり橋泡は茶り
 は手あり泡ちの人之尾張系り、と濟を、なり橋泡は十帖を
 はさ福や一卷被下は泡ち人え
 一金二百疋被下は尾張え口祝は祝儀百疋泡ちの人戴よりを申さる、
 一女中一統三仲間祝は祝酒は認戴は今日ハ取込て明日に成は
 一 今日准后泡の上臈は三人は乳は年寄召されは祝は祝酒被下はく和し
 ハ無
 一 るり松泡は初同断被下は若ましゆも同断お八百泡初るり松泡初三の間
 まては認被下は今日關白泡初諸家よりは祝は肴一折つ、上る諸役所
 方同断はし一統よりもは肴きん上
 一 今日の上合の肴肴兩役衆えは先例下され無親王泡方ハ下されは申刻過
 は内、准后泡え出湯成は祝は膳濟を、一こん出る女中一統櫻の間
 にては祝酒は一こん下されは何をも袴之戌刻過入湯成は表出湯成は

くもん所ニあは酒宴有こかよて仰附のくは盃臺出る關白泡より上クのく
は肴は膳ニ出る

一今日の祝儀銀二枚はまも入中山大納言金三百疋つゝ三卿三人菊の
は間にてするあとのにて被下はは用掛り兩人え銀二枚つゝ非常附使番
六人え百疋つゝ預り初鳥目之はちの人え銀二枚は祝儀被下は

一衛門内侍泡は重服はゆへ親王泡

一は式濟をのくまてはまはり製にては献上物ハ明日するくゝ三蓮は進上
之

一御所准后泡はまはりるニハ及不申とは沙さ之出浮のは時分ハは祝濟ニ
ては系り之薄服ハはりはは無

一今日は表にて關白泡は初は祝酒は料理二汁七菜は精進も出る両役
はまも入三卿は里りの同斷出る

一近習は番は免一統徳大寺は系賀は番は免内々外様六位非藏人同斷儲君

泡奉奉職事系役衆同斷は祝酒被下は今日のは肴大すき泡初はくそり三
仲間えも同斷奏者番えも戴りては親王泡より大すけ泡初は兒りのえ
はは取一折つゝ戴申はは今晚は酒宴ニ附は吸物五通りは重肴五組内は
精進一通りは鉢肴四通り内は精進はすの物三鉢は水之物三鉢小四方以
下堂上は重肴一組は鉢肴二鉢濱焼一鉢はまゝ右非藏人え出る

一内侍所え當月のは鈴大はき泡新大すけ泡は諸のすき泡長とし泡は
ゑ大は乳よりほきるはくは進上

廿九日

一昨日のは祝ニ觀行院泡はしめ知光院泡はしめ蓮觀院泡は初

一梅仙院泡は初心淨院泡は初はは取一折進上をいゝよりもは肴一折
ははしきん上有

一衛門内侍泡はするくゝ進上

一内侍所えは鈴宰相典侍泡おくは泡新内侍泡はは与ゑ越後ゑ能登ゑするの

- との方ほきふるゝゆくは進上
- 一 申刻ころ親王の禮に成ふり松の初は供に常所なる盃は三こん旨
- は三献め天酌のふり松のえ天酌なる盃下されは
- 一 一之間にては口祝は吸物は重看にては盃有はく和し出るは前にてはき
- んさい一そこえんをぬ
- 一 親王のふきん上物ハるふをぬ
- 一 天とい長橋の酌にてはの間にてはちの人え被下は此は人ハこか
- さつとめぬゆへるうに遊し被下は例ハあふ後猿の間にては
- り松のちの人えは祝酒出るはく和しも有は小性初申口なるは祝酒は
- く和し戴りるをぬ
- 一 敏宮の今日薄清に成りのは機嫌伺りのは祝仰入ぬ昨日のは祝
- は看一折上くの
- 一 傍所は重陽のは祝儀は絹一疋はかりえんをぬ

- 一 敏宮の重陽のは祝儀仰入ぬをさい一そこ上くの
- 宮のえ大すき初は看三種上る上り合のは看一折つゝ和宮の初は
- きる観行院の初えは看するゝこんぬ上る蓮観院の初同断知光院
- の梅仙院の心淨院の初え同断は戴りるを申は
- 一 來月のは神供内侍所え附ぬ
- 一 中山大納言ぬは鯉一折きん上こあふは看三種被下は大すき初は傳
- へに成は
- 三十日
- 一 ちうえんはつ本百疋出夕りさ備へ上るは膳ハハりゆ出るはくしの
- は初穂は詠草文こ二ツ上るはくしとりはるをぬ

十月朔日

- 一 傍拜有は神供内侍所ハ附ぬ朝は盃看まふのは代茶宰相侍の茶り

一 初尾百疋旨はる朝りせる宰相典侍の衛門内侍の越後
 一 親王の准后の祝儀仰入れの肴一折つゝ上クの夕方の盃は三
 ん旨は三献め長橋の酌の女中男りゝ通有准后の不系之

二日

一 彦拜有敏宮の方使藤崎系の彦機嫌伺のよを肴一折上クの
 大すき初はままし硯多の肴戴は

三日

一 彦拜有今日立猪の附例の通有親王の准后の宮なり
 一 關白の初よりきんしる申出有ふり司入道近衛入道ハ申出シ
 無入幡をん法寺ハ初白附出る本願寺新門方きんしる願出されは
 こよひの盃はくゝ准后の出席はくゝつよクの女中衆も
 うちの袖をひつと申さるゝおはる兒は兩人大はち初は盃は通有
 の間よくはの間にては申は盃は三こん旨は三献め長橋の酌之

はもちた被下は女中男りゝ通有男りゝえもはもちた下さるゝは表
 えははくゝ出る内侍のら衣そへ出る非藏人百五人後院上北面壹
 人同藏人壹人非藏人三人樂人え出る

四日

一 關東をさしくひえんきん
 一 觀行院の祝は系りの所
 一 不系三仲間知定始系の
 一 故宮の薙髪は祝は系の口祝は祝酒は認は戴よりをはくゝはしも有
 夕らより大すき長橋の和宮のえは系り之

五日

一 とあし

六日

一 泉山えは代香は表は香は花系る庭の小町は備へ系る

七日

- 一 敏宮の御用を長橋の系りと言傳ふ重之内をのりありとし
の系三種の系あり
- 一 瑞龍寺の親王宣下の祝ふ系り箱物上クの対面成口祝は
の系重香をのり盃申口にて吸物重香膳出る
- 一 准后の系も系り有九もし成はるの物よく和し出るあらあきの
か生えんをのり暮過暇之の三頭初はのりまんとす下され心淨院
の知光院の初は系りの所は不系之月をのり^{脱アルカ}の系り吸物認は菓子
出る諸司代より内々小架きん上有
- 一 廣觀院の應修院を長春院の系り対面盃下され申口にて吸物
認九もしよく和し出る
- 一 淨寺淨所上臈の初は系り祝酒認よく和し出る瑞松院系りの口祝は
祝酒認は菓子戴りをのり准后の和宮を今日蔵附に^下附はちん一寄

八つ、上クの

- 一 明日所門の附弟に取ら養子に^下附下されは物之使ふ乳系りの
機嫌伺クの杉折は菓子上クのこあより文こ之内は煙草入
- 二 ツ三ツ重は盃系る聖門の三頭の大乳はこんぬ五十本つは樽
代三百疋つするりとの二百疋按をのりすき初はこんぬ百本千
疋は兒の文こ之内下されは別當典侍のえ金三百疋こんぬ一箱下され
は

九日

- 一 聖門の三種一荷上クの右に附淨所より三種一荷系る兵部卿宮のよ
り系一折上クの織君を^さかひ一箱五十君を^さかひ一もこ上
クの兵部卿宮の系一折
- 一 奉書にてるは三頭の大乳をこんぬ五十本引合十帖つ上るする
りとのよりこんぬ三十本

- 一 按を掃のすき泡初より延紙二十束こんぬ百本進上
- 一 宮泡りさよりこんぬ一もこつゝ来る
- 一 二條泡り小鳥上りの女中にも被下り
- 一 此度の事ニ附關東之使より所司代系内附そへ横瀬山城守系内小彦所
ニある對面天とい給ふ將くん家方ある二百把
- 一 天璋院よりさより銀二百枚えんきん所司代より太馬代^{刀股カ}ろうそく三百
- 一 丁山城守を延紙二箱献上
- 一 東本願寺の茶口切ニ附茶一箱の肴一折献上此度の事ニ附大すき泡
えりるや一反金貳百疋被下り新大すき泡長橋泡えも同斷被下り

十日

- 一 泉山えり代香宰相典侍泡の香の花着の備へのゆくとし心きしも有今
日ハ膳内ニ精進之
- 一 少將内侍泡りさしつりへて下り中見舞をさへるふ二組女中一統

の上る

十一日

- 一 彦拜有神宮の法樂有
- 一 敏宮泡えり肴三種系クの
- 一 新大すき泡えりし代系札進上關東此度の事ニ附半金二十枚進
献之親王泡えり乙との茶一もこ入り記上るのちの人ハ渡ス高階安藝
守より焼物の肴入りくわし札^{札カ}をきん上有
- 一 親王泡こよひ別殿ニある兒の拜借の系り之

十二日

- 一 彦膳内ニ精進の茶の口切來ル廿二日ト仰出されは古今集彦開見秋
冬と仰出されへとも延引仰出されは表え申出る尾張えも申渡ス
口向え右京大夫ニある仰出されは
- 一 來月十九日光格天皇様の正忌ニある所ハ所ハ神事にて今日ハ法事

料銀十枚出されし

一新朔平門の法事三枚出る

一いりゑ大の乳子細の所勞昨夜三日間下る

十三日

一今日涉殿内は精進般舟院へ代香長橋の法事有る香花の備へへの菓子有

一泉山へ宰相典侍の法事有る香花二筒の備へへの菓子有る

一表の代香有る香花系る宰相典侍十日か今日まで願て下りりりより法事有る用の人廻りし

一今日比涉機嫌准后よりいりし上りの心はし有る表えも出る

一馴染の人々を花一筒上る泉山計之是までハ座無はへとも今年ハ

黒戸の備へはくわし上る今晚よかり過る清めの湯着

十四日

一聖門の此本との返し三頭なりと按を堵のすき初に被下し
一少將内侍の今日清よく上り之
一いりゑ大の乳今日上りいりゑ不勞にて断申入は准后より三種の法事
上りの宰相典侍の上り三日比はふりひにふり灸之由は膳にまん
進上夕方は別殿涉機嫌はよしとあり出御はふり口祝計
出る

十五日

一いりゑ猪の附はまんしるう出されし
一親王より法事一折上りの
一准后より法事一折上りの
一親王はこれより今年か進上をのり准后はえも系る敏宮和宮の
参宮はえも進上の
一親王宮よりと關白の近衛は口の頭はのり系る此度

一 知門泡方願の由多くの箱世話卿
 一 廣橋ぬえの渡申は輪門王寺新宮泡叙品をん下は滞無濟をのり札有夕
 方は盃は三献者三こんめ長とし泡の酌ははくくもあふをのり
 泡もちま下されは女中男は通り有

十六日

一 此ころ泡坊の由ををぬるよりしりくは内侍所七日の間は祈禱仰附の
 契ふさた泡宮へす取めうを泡え七日之間は代系立のり札上る所司代
 より月次は看一折きん上一乗院たま君泡明日は上京えよしにて奈良附
 一 桶上クのり

十七日

一 輪王寺新宮泡叙品宣下は附三種一荷は献上こあふよりハ何もまんとし
 物は沙の無親王泡は三種一荷上クのり准后泡え同断明日其はのり返
 し之親王泡ハ泡用掛り取次系る敏宮泡和宮泡考宮泡えこんぬ一折つ

ゝ系るそのまゝ返し非常附使番之一乗院泡は上京こる杉折はくか
 し二色者

十八日

一 關東使參内小御所は出御成御對面此度關東方願を和宮泡は縁組の
 事願に附は治定の事仰出されは大すけ泡としめ長橋泡は仰渡さ
 れは三頭えも申渡す口向は駿河とのこる仰出されは今日
 一 和宮泡えは治定仰進ふをのり使は大使は乳事系りはふ不勞にて下り居
 はゆへ越後ぬ使は系のり長橋泡の口上にて宮泡は對面は返答にて
 あふをのり祝酒は認九もし出る
 一 初夜比りへり系のり手つちくは包物嶋縹子のおもし人形一は盃下
 されは由著用物ハ板の物之はミヤには看二種上のり女中一統は祝の
 泡多奉書こる出る
 一 親王泡も同断出る泡ちの人

一何りの礼品黒衣たへ引出シ附の品多し着二種上クの

十九日

一光格天皇様御祥當ニ附御を掃のすき泡代香み茶向御香花御備へのゆくおし御心をしも有思召泡にて両役御硯多にゆくおし二色被下

一准后泡もハリりにてゆくおしえんを御使に受ぬ之ゆくおし菊の下水こすへの秋

廿日

一此程方下の方にゆくこり出来クの今朝御口明クの御薬上涌カの泉桶寺への寄附物傳奏衆えするりとのにて出され

廿一日

一親王泡茶御口切廿七日ト仰出され
一敏宮泡和宮泡方多掃さき藤御乳御使ニ茶の

廿二日

- 一涉所御侍本の御口切ニ附
- 一親王泡准后泡方御着一折つゝ上クの敏宮泡和宮泡より御組合にて御よささり取上クの
- 一涉所より親王泡准后泡え茶一と御着一折クの御使表使ニ
- 一准后泡御不茶ニ御せん御菓子御廻しニ成クの御綸子一反御使に御ぬ之敏宮泡和宮泡御膳御一通り御茶ゆくおし御ちぢめん一反つゝえんを
- 一敏宮泡方御薄板二枚上クの
- 一親王泡なを御口祝茶
- 一涉夕御膳御一所ニ出る夕方五位何もの御通り出る知光院泡御初御不茶御着ゆくおし御戴さりを先しニ附御着二種御きん上
- 一御表ゆくおし出る御下之御着例之御通り出る御表方御茶の入日記上

廿三日

- 一 赤ふさたねえ三仲間が代系を糸の今日乳人たるは附御所勤の
 由人とのへこ糸く由一糸の折きん上返し金三百疋被下
 一 宮治りよこ糸く由一糸つゝ此れし進上返し由ある二ゆひつゝ下
 されは三頭治伊よる駿河との大乳はこ糸く由一重つゝ此れ取二種
 つゝ
- 一 福を坊のすき治初申口えこ糸く由荷桶を糸一所を糸る由一同より
 由ある一ゆひつゝ下されは三頭治初より二番そくはまへの文こ一つ
 におくりは關東使系内
- 一 小治所を治対面出治ある由繼代親王宣下祝由使
- 一 將くん家方由なる二百把三種二荷天璋院由りより紅白由縮緬十卷由
 使京極丹後守方由太刀馬代進上
- 一 旦しの尾頭中將を拜賀を糸三間にて由對面くはの間を天を給

ふ二種一荷きん上

一 妙勝定院宮治え由す、鉢にて由く糸し二色糸を糸る所勞心よし上の

廿四日

一 吉田をより例年の通り花手桶を看三種きん上

一 妙染院を糸の申口にて由認はく糸し出る知門治より親王宣下由伺
 て廿八日ト仰出されは

廿五日

一 昨日由願を成は親王宣下少く由間違にて由願さきを相成は

廿六日

一 泉山え由代香長橋治糸向由香を糸る靈りんしの宮治を由使寛て
 由治糸り由く旦し上クの由小文こみ由懐中物由持り多く由袖入
 クの

一 寛て由治え由包物被下は認出ス由間物由すより由く糸し被下は

廿七日

一今朝長としは上り之今日はのこにてはきんしるう出さるゝ入道准
后はえれちん者

一妙勝定院宮はえ同断者

一ミ妙覺院はも同断者

一親王は茶は口切之附は茶一もこは肴一折上クの夕ら之は盃茶はつ

くく被遊はは三献者もち支被下はは三こんめ長橋は

一酌之女中男り之は通り有

廿八日

一朝は盃者神供衛門内侍は仰出の大は乳所勞心よく今朝上りは

廿九日

一今晚方新嘗は神事入

一敏宮はまとしは衰々しくは使方出来クはは肴三種は當夜衰はくし茶

る白縮緬一卷は紅一疋男紙入二ツ小町形一組三とく紙入一ツ煙草入男
形三ツ縫取二組は袖入二まんちやく二からうち二本あさりはりんさし
一本は人形二殿中半は煙草入七ツはちた籠一箱は袖辨とふ壹茶る
一夕らふ手あし多くしや出されは
一按を埒のすきは月水にては下り新大すきは湯遊しりも下り之少
將内侍はも下り之女中一統も湯有は火りへ之は湯あふせぬ

十一月朔日

一朝は盃者神供衛門内侍は氣向をふのは初穂金百疋者朝り登る新すき
は長橋は能登る

一參賀は對面成親王はよりまふのは祝儀仰入の肴一折上クの准后
はも同断上クの

一口切て附て茶一とこつとの肴をもし一折つときん上之
一夕りの盃を三献を三献めなりとしの酌之女中男りの通り有

二日

一近衛の九こん一樽上クのく返しにの茶はくちしる
一新すきの月水出り下り之

三日

一和宮の此度關東の縁組の表を系向の人々の内意仰出され内儀
よりハまとし附て玄んをの宰相典侍の能登る三仲間にてハ末の衆梅壹
人の多く所をて松江計

一長橋の茶阿右京大夫の見をくりて分らりれ由内仰出され

四日

一と罷し

五日

一石清水の法樂の小座敷をて出涉讀上ケ有今朝の膳は精進之

六日

一春日祭りの丸火入内侍所の鈴を系るの湯行水を系る宰相典侍
の月水をて下り

七日

一春日祭りの當日はくし四重之手をけ金五百疋入
一親王の准后の夢を宮をはくし上クの女中よりもはくし上る夕り
はくし取の神事中のはくし有今日
一大すきの越後大の乳より知行の初穂上る森泰次郎毎々子きん上ゆ
へもへま地の紙入一組の庭の梅をて出來はかつめ戴さりをは衛門内
侍の頭つうて引之

八日

一賀茂下上の法樂の小座敷をてあまをの出涉成讀上ケ有

一 衛門内侍泡今朝下り
 一 知行の泡もつ本なり橋泡新内侍泡に与るより献上
 一 ゐん使森泰次郎此度關東え下向に附銀十枚被下は是ハ口向より上る親
 王泡は用多勤の泡に附暮の泡祝儀三百疋親王宣下はするくくと濟をの
 泡祝は百疋被下は右京大夫を戴さるを

九日

一 内侍所泡法樂泡小座敷にてほふをの泡出涉成讀上ケ有脱アルカ
 一 准后泡は月水にて下り泡表口向に仰出されは見をりなり松泡に架
 る泡系り

十日

一 今朝より泡風心泡にて泡り床に成クの泡和宮泡此度桂涉所をろく
 泡拜借泡願を今日泡引うつり成クの泡よをさり泡五種をんをの
 一 宮泡も泡肴上クの泡するくと泡うつ脱カ成クの泡事御用掛りよ

り言上

十一日

一 今日新嘗泡當參役の人一ノ采女尾張泡あゝぬを梅あゝぬしの役はく
 泡仰附の泡大泡乳申渡ス縫司ハ右京大夫えなりとし泡を申渡之泡劣
 く所泡無人を高崎壹人を月水もを不申ありら先々をりへに神事
 入致はへとも泡無人を成はへと末の衆梅ををりへに仰附の泡右之由心
 泡尾張え申渡し置は采女初に例之通り泡絹泡かり戴りを

十二日

一 新嘗泡當夜參役のあゝく仰出されは神供の泡役なり橋泡はせいせん
 の采女を
 一 今年初て能登ぬえ仰附の泡をりへ新内侍泡越後ぬ大泡ちハ少く所
 勞にて泡斷申入は
 一 泡絹一疋つゝ泡あゝ外に泡取の百目つゝ被下は尾張初に泡かり三百目

戴よりを此間より此風を泡とふも湯をむつりしく此より断
 申入のいん後行幸あふをいん此をう子伺は
 一准后泡は當夜のいし系るをきん本ふの表壹箱物二ツ三とく紙
 入一ツすミ取紙入一組袖入三ツ煙草入縫取男り三組つゝ紙
 んちやく二ツ御煙管二本あさりのりんさし一本をらうち二本人形
 二ツ盃三枚其外下り中此見舞を肴五種女中御機嫌伺を
 るくみうめん上る親王泡は神事中の御機嫌伺のうとん二箱上
 クの夕方九火は附内侍所へ鈴首初穂銀一枚をいさし泡にて
 此清めにてあふをいん湯ハはり計之
 此道具ハ例年の出は明年ハ持無手ありハ神事中的をいり
 へ此持之膳の茶も明年持無薬の茶も明年の春の
 の出る参役りさし神事入膳の火ハ一所之をいん道具を
 九火は持かり明年さふに出来は今晚より此精進無

十三日

一今日女房内きん有膳此精進あふをいん及女中も精進無

十四日

一新嘗は當夜は附内侍所へ樽肴はもつ本銀一枚参役能登るをいす
 上クのいんは進上
 一和宮泡えは夜ありしは附は雜煮はく之の品はきん本う壹染おもし二
 此附帶一三徳男の紙入二小町紙入一組女形三徳一ツ煙草入男形
 女縫取三組つゝ袖入二あさり此りんさし一本をらうち一本はを
 此一本人形二盃三枚はさんちやく二箱物はさき重之
 一親王泡えは夜ありしは附は雜煮はくし同断をいん
 一孝考宮泡えは雜煮系るをより敏宮泡え同断廻されは酉刻頃表くし戊
 刻ころなり橋泡はと尾張初右京大夫廻り申さるゝ此程よりの風を
 泡にて行幸は沙々無はあ入戌半刻ころ亥刻過あつたのをいん

廻りのしするくと濟りの亥半刻之きさい子刻之しするくと濟りの
丸火解の親王のこよひのしくしはきんふうは表一ツはよさを
上りの初雪を賀茂一折所司代をきん上りしくし取ののし内
御こしはのし表えハ申さすは

十五日

一 神事解の巳刻過しするくと准后の上りしを折外
よさを上りの親王の神事解の折上りの
一新大すき別當典侍の少將内侍の上りの酉刻過節會くし初夜前奏聞
の内侍の申する衛門内侍のへ衣にて廻り免しの内侍なり橋の
五衣にて廻りのこよひも出は沙の無は表えはくはし

水山吹三さは三切四さは

四切出しは

一 今日有栖川宮の賀茂もしやとりの節會はするくと濟りのし表

か言上うしは半刻之

十六日

一 梶井宮の誕生日ニ附小戴一をてうし一枝上りの仁門の行は
するくと濟りのニ附こは一を上りの
一 輪門の神事解の祝仰入のこんぬ一折つ上りの
一 仁門の座主の宮の同断上りの所司代が月次は看一折きん上参宮
の來ル廿八日の髪置仰出されは表は世話卿えも仰出されは口向は用
り取り取次え新大夫にて仰出されは
一 衛門内侍のえなり橋のりもんは渡之宮のりえも仰する衛門内
侍のの多みにて三頭え申渡す

十七日

一 有栖川宮の見事成まつりん上りの親王のえもまんの

十八日

押小路甫子日記

一 冷泉中納言ぬ古今集開見ニ附二種一荷は肴一折きん上こあさよりは肴
 一 折奉書こて出る
 一 今晚は賀茂臨時祭は神事入手あし服しや出さるゝ
 別當典侍は少將内侍は下りえ
 一 今日は淨靈社は火さまは延引今こんの湯は用心はこくは清めこてあ
 ぶさめめ

十九日

一 今朝新内侍は月水こて下り
 一 夕方は丸火入内侍所は鈴は銀一枚はくしの湯は行水は

廿日

一 當日はむる寅刻過卯刻ころは表くし言上は湯は出は成卯半刻庭座はす
 るゝと濟けのゝ入は午刻ころはえんこつは内へ出は成入は成
 未刻

一 今日は刻きんハ出不申は手水は宋女廻の内侍所へ肴一折は鈴系る
 准后はよりはくしの品上のゝ親王は肴一折上のゝ
 一 今晚は夜多りし親王はえはみうめん旨和宮は夢夢宮はえ同斷系る大
 内のみこて系る
 一 宅の宮はハはさしつりへこて屋を廻させは親王は敏宮は和宮はえは
 くしハクのゝ今朝長橋は月水こあは下り晝後按を枕のきはも同斷は
 下りこ下賀茂えんこつ酉刻まへ上賀茂えは著戌刻前口向より言上歸り
 立うしの刻過出は沙さ無は返るゝと濟けのゝ寅の半刻前は神上る
 内へこし成は丸火解の

廿一日

一 今朝は神事解の
 親王は准后はよ梨肴一折つ上クのゝ此度和宮はえ召抱家上薦五辻
 ぬ土御門ぬ東園ぬ

一 念もしぬこあさえぬ目見ニ係りぬ袖入をらうちぬりんさしぬ人形
 壹つゝはくぬし水山吹このこあ下さ程ゝ
 一 親王ぬぬさんニ希ぬぬ^{る脱カ}能ぬさぬゝとぬよしゝの様ニ内侍所え三
 ケ日のぬ祈禱仰附ぬぬはくぬぬ
 一 ぬ使ニ花崎寄坊ぬ乳系ぬぬ

廿二日

一 夢参宮ぬぬり努てぬぬ^{る脱カ}能ぬちゝのぬ返しぬぬをぬぬう子ぬさ
 ぬゝとぬよしゝの様内侍所え三ケ日のぬ鈴系るはくぬぬ
 一 蓮観院ぬぬ系り申口にてぬ認ぬぬぬしぬ間物被下ぬ
 一 春日祭ニ付取次ぬ使ニ系るぬ初穂銀二枚つゝぬ撫物一箱つゝぬ文添親
 王ぬぬぬつを百疋つゝこあぬぬ一所ニ出されぬ
 一 梅仙院ぬぬ蓮葉院ぬ所勞むつりしよし申入ぬぬ尋ぬ銀五枚被下ぬ
 ぬんぬん院事も所勞よろしりぬぬ尋ニ銀二枚被下ぬ梅仙院ぬぬ出る

儀輔事一年下りぬ

廿三日

一 今晚子祭りニ附^下四辻ぬ召されぬ事申出ぬ親王ぬ准后ぬ宮ぬぬの大黒
 ぬぬ系りの様仰^下ぬぬこあぬぬ一所ニぬ樂ぬてふもん有
 一 親王ぬの大黒ぬこあぬぬ一所ニぬ備へ上る大すきぬ初の大黒ぬもぬ樂
 てふもん三仲間のハ申口来て系りてふもんニぬ備へ親王ぬぬえ明日すへ
 りぬ

廿四日

一 夢参宮ぬぬり努てぬぬ^{る脱カ}能ぬぬつよくとやゝぬぬさぬゝとぬよしゝ
 のぬうよと賀茂下上えぬ祈禱仰附ぬぬ夢参宮ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
 うとん下されぬ
 一 梅仙院ぬぬ所勞のうへ此頃ぬぬう子ぬぬしくぬ尋ニぬ肴三種ぬぬぬぬぬ下
 されぬぬ坊ぬぬ乳ぬぬ使ニ系ぬぬ

廿五日

一 今日寒の入夕七時ニ入右ニ附
 一 親王准后准より御機嫌伺クノ一折つゝ上クノ
 一來ル廿八日夢夢宮准ノくし置仰出されルへとも此覺さくニて此延引
 仰出されル此表此世話口向えも此延引仰出されル堀川なえも仰系る

廿六日

一 泉山此代香少將内侍准此初て此系り此香此花系る月きい准此願事ニ
 付此系り此認此く此し此間物出る

廿七日

一 今日進献の此茶此口切此膳例年の通り此茶上る
 一 親王准后准此不系此膳此く此し廻り此使此賀此
 一 せ此の宮准和宮准え此膳此く此し此茶系る此く此し
 菊の下水霜紅梅

一 親王准后准此看一折つゝ上クノ一此此の宮准和宮准よ梨此よきさ
 り此上クノ一此表え此く此し小四方二ツ出る

一 親王准后准此寒中此尋ニ此看一折つゝクノ一此使表使ニ

一 親王准此程より此此むさく一此見舞ニはり形の此く此し此看此んをの
 靈りんしの宮准此誕生日ニて小戴一多ニ上クノ一此代よし此代系能登
 るニ此札進上知門准親王宣下來ル廿九日此願ニて此願ニ通り仰出され
 るニ此親王准此の進を此物此表此伺有

一 桂御所此例ニ通り此此一ニ此此上此所司代より寒中御機嫌伺此此
 一 折をん上此附より此つるんきん上今朝少將内侍准此上り夕りニ別殿
 ニ此小御所此出此成此此三献此此三こんめ天酌ニて女中男方此通り
 有入此成此此乙てニ此此雜此此吸物羽もり此すニて此此出る女中此雜
 此此吸物此認戴此今日和宮准初て此し三人伺有

廿八日

押小路甫子日記

一 朝也孟御神樂也神事十六日ト仰出されは也、拂廿二日ト仰出され
 也聖門泡方寒中涉機嫌伺ク、
 一 上ク、右衛門督使ニ奉ル女中にもり物下させ、
 一 遣水也修ふくニ入込の人々は庭ニ奉九もし戴さるは

廿九日

一 知門泡親王宣下ニ附三種一荷こしく一寄上ク、
 一 御所方二種一荷殿上人使ニてえんをク、目録書有
 一 親王泡方一種一荷系る伏見兵部卿宮泡方一折上ク、こあより
 も一折奉書ニ系る宮泡りこえこしく一寄をこい一箱つ、系
 一 宮泡りこをこい一こつ、用掛り取次系る
 一 三頭泡駿河との大乳はこしく一寄つ、金三百疋つ、するのと
 のえ金貳百疋三頭泡方一折つ、駿河との大乳をす、一折
 つ、上るは焼のすき泡初見りまでこしく一荷を、一折

系る返しする、一折進上母儀泡はこしく一寄を二ゆひ
 樽代三百疋下されは返し二種一荷進上靈社火を十八日ト仰
 出されは表使無人ニ成玉淨るとひニ系、名ハ玉井と申は
 一 和宮泡此度方關東の也賄ニ成は

晦日

一 せれの宮泡今日清く成ク、涉機嫌伺ク、右ニ附一寄三種

十二月朔日

一 御拜也沙々無也神供
 一 宰相典侍泡系向をふま初穂金百疋者朝也孟系る
 一 朝りる宰相典侍泡衛門内侍泡い契ぬ
 一 親王泡准后泡より一折つ、上ク、二條泡よりあ上ク、
 一 夕方也孟也三こん者三献め酌なりもしぬ之女中男りも通り有

一 昨乙てのあうまんに初穂出るに備へ上るに膳ニゆりゆきしれに
つ本に多く二上るにくしゆふをの親王に初にくし系る女中三頭
に表えもゆくし下されに

二日

一 准后にせさくし尋ふに重之内まんとゆきを掃のすきに知行の
に初穂進上

三日

一 妙門に寒中御機嫌伺ひにゆくおし上りのく來年の別殿小滂所と仰
出されにゆき明に祝廿八日と仰出されに
一 圓照寺宮に養子仰出されに母儀別當のすきに仰出されに
一 知門に入寺に得度に用掛り土山淡路守に仰附ひに事世話を橋に
え申出るに附えするとの出合にて申されに靈りんしの宮にきんご
い所方に歸京にて系りゆふをの乙やみ花ひんに花臺に札上りのく

外にこんぬ一折に硯石に系りニ附奈良人形上りの宮にりさえに札に
硯石に免まんとゆ

一 滂對面成に口祝出る申口にてゆきせん間物にゆくおし出る

一 准后にえハにせさくしにて系り無

一 祖りうに供にて對面成申口にえん座敷にて認に間物にゆくおし出
るに次尼えに認にゆくおし出る

一 三頭にするるとの大に乳に

一 目録下さるゝゆき掃のすきに初に免二桶扇子一統に一本つゝ被
下は暮過に暇にゆくおし出るあらゆきお生りのく

一 知に來ル七日未刻に系りの事世話を廣橋に申入りのく

一 敏宮にいとひにむさくし弥によしゝにて祝にゆきをのゆき手ゆふり

一 七に肴五種上りのくこあさより掛物一箱に臺肴まんとゆき地紙
形に肴三種に精進二種にゆくおしゆきゆき冬の梅さし物梅に寒菊に大す

と仰付け

- 一宮内は三頭の大乳は三百疋つゝ宰相典侍するりとのえ二百疋つゝ下されは生つくり上る
- 一石を埽のすきは初は初は肴五種は精進より進上大すきは初は九もしは吸物、ふいめんは硯多ささり取はふさし下されは三頭召されははまうた板はおもしは人形下されは湯所は藤崎花崎は
- 一白縮緬一卷つゝ金二百疋つゝまのましゆ金貳百疋つゝ被下は
- 一夢善宮はゆくし置來ル十一日と仰出されはは表は世話卿え申出る廣橋な方知門は入寺は得度は附は道く料九貫目は願ては願え通り傳奏衆は附え仰出されは内義よりするるとのは附え出合て申されは不右京大夫て仰出されは
- 一知は寒中御機嫌伺くはくおしは母儀はえは頼は多二色上クは

五日

- 一知光院は寒中ニは蒸りては肴一寸々進上は對面成は包物下されは和宮は上薦土御門は東園は五辻はむもしは來ル十六日ニ召出されはは事仰出されは

六日

- 一泉山えは代香は表は香はもか香

七日

- 一今日知恩院降宮^{隆カ}は養子後は礼は初參内ニ附せんせくは花生一箱親王宣下濟は礼は側筆筒一箱生はい一折御童惜ニ附生はい一折は卓香ろう一そこ上クは敏宮は和宮はは初系ニ附はも紙臺一そこつゝ親王宣下濟は附は花生一箱つゝ系るは三頭の大乳はこんぬ一折つゝは綸子一反つゝ被下は
- 一こんぬ三十本白縮緬一反駿河とのえ按を埽のすきは初桃色鳴縞子のおもし一筋つゝは与は初黒地同斷系るは兒りはえは小文こ之内さんちや

く人形おくぬ人形煙草入
 一未刻過參内殿え糸りて申口え成ふせの御對面口祝出る養子
 二附花鳥の間にてこんぬるにて盃皆濟ク
 一常御所にて親王宣下童惜一所に盃二こん糸る濟ク花鳥の間
 間にて重香にて盃皆申口にて膳茶の出る乳はなり橋の
 盃有くむの大乳の橋大ちうちた著用
 一今日何り世話の衛門督糸る一所に申口にて口祝認れくし盃致
 乳祝儀乳は三百疋二百疋衛門督え下され銀廿枚家來一統え
 みや被下乳は渡スる宮ははとはの時分對面前
 養子後初て糸りて附人形一そこ筆そこ二ツ之内ふ多て十
 五對一ツニハ糸本り三枚入糸る親王宣下の乳に附小机一そこ黒ぬ
 り小文この内銀文ちん一對多てすぬし一ツ毛うへ一ツ入糸る
 童惜に附二疋の手つらら糸つの内見事成水入一ツ赤地

のほたす多くる一ツ銀地三ツ折紙入壹ツ古の末をろ一本糸る
 一准后えも成ふせのえんせの物有
 一親王ハ受さるゝに對面はふに養生後初ての糸り
 二附人形一そこ親王さん下二附手ふり一そこ童惜に附さ
 や二卷文こ之内品々えんせの
 一敏宮より養子に附えなふ一そこ親王宣下二附花生一箱
 一和宮より養子に附花生一そこ親王宣下二附あふり手ふり
 一そこえんせの乳は母儀少將内侍より名茂治部卿ト申渡し
 之は多く所を茶のこ下され少將内侍え給子一反文こ一二
 糸る初夜ころはするゝと退出
 一關東方さるりのさけ進ん來ル十日とひ關東より親王宣下二附上
 りはくそり仰出され親王ハ十一日ト乳人え申に世話卿
 え仰出され

八日

一 今日も梨比供養を承ひよぬ方宮ん控ふりい上ふれは
 一 親王准后准敏宮准和宮准上り敏宮准はま、拂に附りよを看えんを
 の夕るさゆ盃一こん系る女中計り通り有

九日

一 關白准父子え寒中返しに申看一折つゝ系るゆく見し一折つゝ
 一 梶井宮准仁門准法華寺准え寒中比返しに系る信樂院願事附系の
 比認被下は
 一 末のしゆゆるとひあ事申奉公人に仰付の、名を儀と下されは小とも
 代よし事末の乗ゆるとひに仰附の、大乳申渡す礼申入の、口祝戴
 さらせは

十日

一 念とひ立親王宣下に附關東方志んきんの取取

一 内侍所え比初穂はる二ゆひ

一 准后准え比取の十ゆひ宮准りさえ五ゆひつゝ關白准は五ゆひ旨

一 大すぎ准初駿河とのまてはる三ゆひつゝ比兒比兩人おくは准取取

二ゆひつゝ三仲間一同ゆるとひをつりさ一ノ宋女さ比初取取の壹ゆひ

つゝより松准乳人お八百准お比本准お菊准大貳藤坂准取取の二ゆひ

つゝ

一 新宰相准え同斷觀行院准初知光院准初取取の二ゆひつゝ口のちもつえ

壹ゆひ被下は

一 兩役乗え比取の三ゆひつゝ近習一同三卿三人比取取の二ゆひつゝ

一 非藏人三十二人比ある一ゆひつゝ比表菊の比間にて給り比非藏人ハ

儀奏乗え比渡し申比附兩人比ある三ゆひつゝ駿河との出會にて下
 されは關東方二百把上り比百五十程ゆさしに相成は

十一日

- 一 神宮に法樂小座敷にて出涉成讀上ケ有考参宮泡涉髮置ニ附内侍所えこ
かより此看一折系る宮泡カ此看一折此鈴系る此初穂金百疋系るこ
かニ系致此上涉靈社え此初穂金百疋系る
- 一 御所え小戴一多さ此看一折此てうし一枝立目錄ニ系上ケの親王泡え
小戴一多さ此看一折准后泡え同斷えんをの敏宮泡和宮泡え小戴一多
さ此此しする一折此使非常附使番系る此三頭泡大此乳は
小戴一多さつ、此のし按を此のすき泡此初駿河とのまて小戴一多さ
此し此母儀衛門内侍泡え同斷
- 一 堀川三位ぬえ同斷下されは
- 一 此涉所カ親王泡准后泡え此看一折つ、ケの堀川三位ぬはよを看五
種此樽下されは
- 一 敏宮泡和宮泡よりこあさは
- 一 此乃取一折つ、上ケの考参宮泡は考る一折三連つ、えんをの

- 一 涉所に大すけ泡初するりとのカする一五蓮上る立目錄にて
- 一 考参宮泡え此三頭泡大此乳より看一折上る按を此のすき泡此初カ此看
一折を進上三仲間カ考る一三連きん上
- 一 今日此くし置巳刻ある何りと一午刻前堀川ぬは
- 一 衛門内侍泡大此乳系る白此系もし此考二ツ此えりか此看一折此
人形一もこ系るまくに此式此考
- 一 宮泡此殿ニ二帖此板と此ニ系此考ち三位ぬはまりか此考此頭此免
さ此此此此此りり此此へお此此ニ置此此此り物六合ニ系此三こん
此此此此此衛門内侍泡此手なり大此乳之まつ此袴之此する一と濟ケの
上臈代泡カ此口祝此祝儀衛門内侍泡え十帖嶋縹子のおもし大此乳十帖
ニ金貳百疋尾張役奏ニ系の口祝大此乳戴、りさ此此祝貳百疋戴、り
さ此
- 一 宮泡え此手遊ひ物大此乳より上る本り川三位ぬえ此看五種精佳二種

一 傍所に衛門内侍泡を二種の由着の上ケ
 一 妻参宮泡より本り川三位ぬえの硯多さ着すもし下されは
 一 今日の内祝儀三位ぬえ金三百疋刑部ぬえ貳百疋寂靜院泡え同断をもし
 泡は兩人百疋つゝ八重岡は貳百疋の家來は銀二枚下されは
 一 宮泡のお松お石え二百疋つゝ乳兩人は金百疋つゝ衛門内侍泡え三百
 疋被下は御用掛り取次え貳百疋非常附使番兩り勢壹人は百疋つゝ下掛
 り兩人は五十疋つゝ鳥目五百疋つゝ預り三人仕丁四人は右奥より致は
 宮泡を金百疋板本一人鳥目五百疋煮方壹人鳥目三百疋持人仕丁二人と
 つし所四人えハ奥が致尾張え渡ス上合の由着一尾は用りゝりは戴ゝり
 され本川ぬえ返しにするゝ三蓮下されは世話卿がむ一折上ら
 るゝそのまゝ返しに被下は衛門内侍泡を由着一折上らるゝそのまゝ
 返しは由る物衛門内侍泡え一合大すけ泡初二合は世話卿一合二合は
 里りさえ下されは内々御用掛り使番えも少々つゝ下されは是ハ

祐宮泡の髪置の由例は母儀泡え壹石はちゝ人え一石五斗は手形被下
 は

十二日

一 今日東西對屋を拂て附
 一 山口切の由認はく和しは茶戴は新大すき泡多年勤苦は知行は加増二百
 石下されは様關東より濟來はよし新大すき泡え長橋泡を申渡しに

十三日

一 泉山え代香由表よりは香は花系る

十四日

一 今晚より傍神樂の由神事入参役宰相典侍泡衛門内侍泡は仰出されは尾
 張えも申渡ス
 一 敏宮泡より藤崎由使え系ぬゝ由言傳えは當夜は夜多りしの
 一 由を私の由表一ツはそこ物二ツ此外は例之數はくしにまんをぬゝ
 一 夕々別當典侍泡なり橋泡少將内侍泡は下り之手おし服しや出さるゝ

惣火り見る

十五日

一内侍所は法樂は小座敷ニ出涉成讀上ケ有夕りさ丸火入内侍所は
鈴者はこつ本銀一枚者はくしは湯は行水者

十六日

一涉神樂は當日内侍所は樽肴は鈴者は初穂銀一枚蠟そく一箱系る親王
泡は表一ツ肴三種上クの
一准后泡も同断上クの

一涉所より親王泡えはくし系るはきん本ふの表一ツは人形二ツ三徳は
紙入一ツはさんちやく二ツは袖入二ツ男煙草入三組縫取二組をらうち
二本あさりはりんさし一本てん中五ツ外ニは雜煮者使は下さち系の
敏宮泡は初は雜煮系る酉刻過は表くし言上酉半刻前は湯者出涉成刻き
ん出るは服男方は手水の案女兩人廻の入涉成初夜ニ一刻前は一こん

者兩役近習は前に召されは一こんはくし下されは

一うしの半刻ニ二刻まへはすねくと濟をの宰相典侍泡衛門内侍泡歸
りは系りは紳上るは口祝有末尾尾張は祝申入の口祝戴りさは
一はくしはふをの丸火解の

菊の下水は表え例え

は通り三本の三切四本の一切こんぬ出る詰のいしえも戴りさは
入涉後涉機嫌伺有詰免をの

十七日

一は神事解ふれは親王泡よりは肴一折上クの准后泡も同断上クの當
暮のは祝儀は拂向は金子は多つていニ附先達傳奏衆え仰出されはへと
もいさ關東は濟系り不申は手つりいニ相成又は傳奏は取計ニて千七
百兩上クの申出傳奏衆は取計ニて今日千五百兩上クの暮のは祝き來
ル廿五日ト仰出されは近衛泡はぬみ酒上クの返事は茶はくおし

者

一和宮泡の上臈三人昨日はするくくと上りにて一ノ上臈おする泡二臈
おとれた泡三臈おた多泡年名泡のり書附にて儀奏衆え申出た夕りさき
のへ子にては膳みゆりゆ出るは備へ上るは献奉行より茶のは残り三
十七上りは表え十五出ス

一泡三頭泡え二袋つゝ按を拂のすき泡宰相典侍泡え二袋つゝ別當典侍泡
は初え一袋つゝ越後大泡乳二袋つゝ能登ぬい登ぬえ一袋は紙包そへ
は戴りさる夕りさるまみのは盃は戴は

十八日

一は延引の滂靈社火は例え通り有

十九日

一關白泡え暮は祝儀は絹二疋半金一枚は着折系る

一近衛泡え半金一枚は絹二疋は着折手本の祝儀は

一外は酒毎々上クのくは挨拶はは袋ぬ五疋系るは梨の人は金千疋
大は乳の多みは

一ふり司入道准后泡えはきぬ一疋銀三枚は此は絹口向より上るは妙覺院
泡え銀五枚年寄初え銀十枚下されは多にて出ス鳥丸大納言ぬは袋ぬ

一疋銀三枚下されは三頭泡のは多にて出る

一今日官位のは沙は新大すき泡從四位上按を拂のすき泡

一宰相典侍泡正五位下

一長橋泡從五位上少將内侍泡衛門内侍泡從五位下位階を給りはは礼は申
入は着折進上は

一衛門内侍泡え敕點仰出されは

一明年四月公卿敕使仰出されは

今日ははくふしは表え出る

さし出の磯霜紅梅

一 此表えは鉢肴三ツはすゝ三ツ出ス

廿日

一 とかし

廿一日

一 親王准后泡えは星は寶赤ちりのく敏宮泡は初同断系る廿四日節分ゆへ明朝早くは星は返しに成は様仰系る明朝は返しに成はへそ後よしは開々んこ出るは初尾百疋つゝこ罷より出は

一 親王泡へのあふは開々んこ出る

一 此度和宮泡關東えは縁組は請は礼關東使酒井若狹守よこ瀬山城守參内こを將くん家より

一 半金三十枚は取る三百把

一 天璋院は方より大文綸子三十卷銀貳百枚玄んきん惣女中の

一 銀三百枚系る此銀大すき泡は初はる堵上る銀十枚ト五十四疋つゝおく

は泡は兒は兩人え五枚宛三仲間え百枚一ノ宋女初え十五枚はす不日き之明日はまゝに附うん控うの殿上人は系り之は鉢肴三ツはすゝ三對出ス

廿二日

一 今日はまゝ拂に附はる寅半刻卯刻前うんふう有殿上人は廻り之卯刻過は學もん所はきんし泡取しまし出彦成は表仰出されは内侍所はそ花不先濟りのは事申入有夫より引渡し大は乳之

一 親王准后泡は肴五種つゝ上りのく敏宮泡和宮泡よりは肴三種つゝ上りのくは表りゝゝ例之通りなり橋泡のは局えは廻りは認出る大すき泡初えは重之内旨夫々の附はては跡こかゝのは重に入うんふふの殿上人え出しは

一 申刻ころあつりへこを盃旨

一 こん之女中男りゝは通り有は酌なり橋泡はくを能登るは肴大は乳は

てんむりくハ越後ぬ之申口にて女中重さり取柄つりへニ亦盃有也
 なるの物は盃女中中通り戴はは間物也一こん出る也前にては戴之暮過
 也するく〜と濟クの〜事言上は清まひ白川ぬ召しは
 一兩役近習也前に召されはく和し下さるゝ初夜半ころ入涉成常涉所にて
 是盃は三こん系る女中計は通り有は酌大は乳之入涉前うんふふの殿上
 人召されは

廿三日

一圓照寺宮泡は養子也なる 二付こ和くは一多さつゝこんぬ一折つゝ系
 る

一は三頭泡大は乳えこ和くは一多さつゝこんぬ五十本つゝするゝとのは
 こ和くは一多さこんぬ^{ぬ脱カ}三十本系る

一按を埜のすき泡は初えこ和く涉一荷下されは

一涉所よりこんぬ二百本取次は使ニ和者親王泡かこんぬ百本

一敏宮泡和宮泡夢夢宮泡かこんぬ五十本つゝクの〜

一は三頭泡こんぬ五十本旨大は乳も同断するゝとのより三十本

一按を埜のすき泡は初え延紙十不く進上東本願寺新門主得度後初系内ニ
 附小御所ニ和は對面成献上物有關東よりぬは鶴玄んきん女房の奉書

廿八日に出されは親王泡より暮は祝儀は三頭泡するゝとの大は乳は

二百疋つゝは兒也兩人えも何りと〜遣立遊しはとて二百疋被下は

一植松ぬ錦小路ぬえ例之通り也ある二ゆひつゝはもあは丸藥の返しニ
 出されは水無瀬宮は銀六枚は撫物一もこは文こニ入出されは土御門ぬ
 え半金一枚出されは

廿四日

一今日節分ニ附は賑々之夕りゝはちらし上る酉半刻ころ

一内侍所は系り湯着也もつ本銀二枚は肴一折系る内侍所えはもゝは重
 肴也年の也まめ廻し置は女中衆も涉供涉拜濟クの〜はもゝは重肴也ま

め上る女中衆も祝酒のまめ戴れ入彦成の盃有のまめそやし上段被遊の劍しの中間常彦所中段ある橋のまめそやし湯殿参内殿の三間上段小彦所之上段衛門内侍のにおきらも皆准后の出席女中を通り有別殿初小彦所へ出彦成の盃三こんの三献め天酌の女中男の通有り有の鳥うゝゑるゝ入彦成の雜煮の吸物羽もりにて盃系る准后のえも同断出る女中衆の雜煮の吸物認戴の内ゝ年物白めん百疋へはましな有なり橋の局へ出る今日午刻

福井美河守

高階筑前守

久野長門介

一内儀伺有誘引藤木近江守のするゝと濟申口にて口祝戴りをい是より常伺仰出され近江守へ申渡す取次えも表使にて申す
一表の茶の分といは着出る

一准后のえ大多くは茶大のちの口上を末のしゆ系る親王のハ三十日上はよし申入ぬ

廿五日

一今日立春の暮は祝儀被下
一内侍所への雜用料の口向より上る初穂銀六枚非常附への祝儀銀十枚下されいめし渡す表の内儀例を通り下されは附兩人へ銀二枚つゝ寒中の返しは一所へは二疋つゝ下され
一此度和宮の道具御用へ附別段は兩役の衆へ銀三枚つゝ
一久我の中山の廣橋へ別段金三百疋つゝ橋本を奉行へ附銀二枚別は二百疋柳原の儀奏の勢へ附貳百疋下されは下は無人へ附越後初銀二枚つゝ越後へ金三百疋別段下され
一表使の無人へ附右京大夫新大夫江坂へ金百疋つゝ戴りを
一和宮の關東へ縁組を治定へ付

一親王准后の敏宮の和宮の参宮の方より一折つゝ上りの
 一此所よりも親王准后の敏宮の和宮の参宮のえは肴一折つゝま
 せの

一關東の祝儀は酒井若狭守よこ瀬山城守参内小所こくは對面成天
 い給ふゆき男り

一將くん家より正廣の太刀腰馬代黄金五十枚三種壹荷まん献

一天璋院の方より二種一荷きん上

一親王のえ正永の太刀腰馬代銀三百枚二種一荷天璋院の方より壹種一
 荷進上准后のえ銀三百枚縮緬紅白五十卷二種壹荷

一敏宮の参宮のえ銀二百枚宛天璋院の方より壹種一荷つゝ

一和宮のえ二羽重紅白百反縮緬紅白百反段子百卷五種五荷進上天璋院の
 方より大もん綸子紅白五十反二種壹荷進上今日不く日は暇料理菓子酒
 給り若狭守の忠吉の太刀の絹紅白二十疋下されは山城守のまんの

太刀さほや十卷下されは

一親王の西湖八景の縮緬紅白五卷准后の九十九賀の卷物のまぬ五疋紅白
 の親王の山城守の縮緬三卷准后のさほや三卷和宮の若狭守
 え三都砂一まこ縮緬紅白下されは

一参所の若狭守の太刀馬代黄金壹枚蠟そく千丁きん上よこ瀬の太
 刀馬代銀一枚蠟そく二まきん上關東より祝儀は兩大すきえ銀
 廿枚つゝ旨なり橋のえ三十枚駿河との大乳は十枚つゝ惣女中え二百
 枚系る

一衛門内侍の教點詠草伺初に付は取一折進上夕り立春にてこ承くは
 の膳は盃は三こん旨女中男方は通り有は小盃ハ女中計は通り有

廿六日

一泉山え代香宰相典侍の系り香はこ系る

廿七日

押小路甫子日記

一和宮泡方昨日治定祝儀はまねく〜と濟せぬ〜に附はよを肴上ク〜
湯所方も同斷せんぞぬ

一女中一統方肴肴一折上る宮泡方七種の肴肴下させ〜三仲間えも肴肴下
されぬ和宮泡方右京大夫を免されぬ昨日の祝儀の品々も見せ〜
せぬ言傳二鶴一羽せんぞぬ〜運觀院泡始え大多く此茶下されぬ
伺はしえもいぬ〜りせぬ

廿八日

一此御所はうき明に附うき神泡えは代系右京大夫系ぬ〜初穂金百疋は
札系るは小座敷に祭りはくうし物百味のぬ〜しこぬ〜ぬのぬぬ
もりぬぬ〜一對上る

一内侍所え山をしは肴肴一折は鈴は初穂銀一枚肴親王泡えこぬ〜は一肴
は肴肴一折准后泡え同斷肴は使表使に敏宮泡今日は日柄也へ明日系る
ぬぬ〜よりも同斷

一和宮泡孝善宮泡えこぬ〜は一肴は一折系る親王泡はは盃臺は肴
一折上クぬ

一准后泡方同斷外にぬよを肴肴一折上クぬ〜和宮泡孝善宮泡は肴肴一折つ
〜上クぬ〜和宮泡よりぬよを肴肴一折上クぬ〜仁門泡はは盃臺上クぬ〜
は夕膳は祝は吸物出る親王泡は上クぬ〜は盃臺出る

一申刻ころぬ〜し取ぬぬ〜ぬ
一御上はぬぬ〜つ抜ぬぬ〜らぬぬ手ぬぬふり一とこ上る親王泡えぬぬ栗は小ぬ
ぬぬ准后泡えぬぬらぬぬ手ぬぬふり

一敏宮泡庭は煙草本ぬ一とこ
一和宮泡えは花ひぬ一とこ孝善宮泡えは手ぬぬふり一とこ關白泡えぬぬらぬぬ
ぬぬ花生一箱仁門泡えは花ひぬ花臺一箱

一知門泡えは手ぬぬふり一とこ聖門は附弟泡えは手ぬぬふり一箱妙門ぬぬつの
宮泡はは手ぬぬふり一とこ圓照寺宮泡ははぬぬうぬぬふり一とこ抜の〜は名

代ニ有ル紙の通り明日出る也臺のり之さか／＼紫の多きは有
 此品よりをいも有大すぎた初三仲間を初しくし下されは
 一今日和宮泡の上臈也三人也礼ニ係り口祝也認九もししく和し出る也
 暇の時分地黒の小袖金三百疋宛下されは也對面ハ沙々無
 一女中一統也祝也認戴は所今日ハもや／＼にて明日也夜よくに也戴は之
 夕る也表ハ酒宴くしは事言上初ハ様申出る也よ依したは事申入
 の程のふ出涉成也そんゑてえ手もふり也煙草本ん上ニ系る也酒宴
 也吸物三通り也重肴一組也鉢肴大もち五ツ也水之物をむし物一鉢
 一小四方也祝赤飯也吸物平附堂上り也二百二十人也祝也吸物非藏人六十六
 人也酒宴ニ附也表え也吸物三通り也鉢肴三ツ重肴三組精進也吸物五ツ
 也鉢肴三ツ水之物酢むし物二鉢非藏人え濱る也壹枚也鉢肴一ツさいを
 んの殿上人は此外ニも重肴二ツ也鉢肴二ツ今年ハ願ニ出されは也
 酒宴濟をのりくしとりもらさのり不追とおおく成はゆへはくし紙也

表え出されはくし紙の通り此品出る近習ハ不系ニても傳へニ成は小
 番也免ハ不系の人えハ下され無非藏人え三千疋外も貳百疋下されは

廿九日

一神供なり橋泡え仰出されは

今日知恩院まりの宮泡也入寺也得度已刻ころ也系内也對面也口祝也重
 肴ニ花鳥の也間ニて也盃肴也手つりも黒ぬり也た會ニ番也文こ之内
 ニつゝ也紙入一組也水入壹也筆すはし一ツ也此もし入二ツ也申口に
 て也膳也く和し出るまくに也退出之參内殿え也長りへニ也系り也乳
 も系のり申口にて口祝也認也く和し盃有也入寺也得度ニ附也祝儀銀二
 枚下されは此程也和しををしみ也系内のさつ也祝儀とりおとしニ附今
 日一所ニ戴りもを涉所より也入寺ニて也内ニ也覽所出來也行をつ也
 覽有女中衆も拜見有今日
 一入寺也得度ニ附殿上人也使ニも三種一荷也さるや十卷也太刀一腰也馬

代黄金一枚系る立目錄儀奏えもち出し入寺得度ニ附三頭泡大乳よりこんぬ五十本つゝ金三百疋つゝ上る按を焼のすき泡初より延紙二十そくこんぬ百本駿河とのよりこんぬ三十本金貳百疋上るゝおくは泡ハ無兒ハ兩人ハあさちのすき泡の内ニ

一 歳暮ハ祝儀親王泡より三種一荷上クハ准后泡より二種一荷上クハ敏宮泡よ梨をい一もこ上クハ和宮泡孝宮泡同断上クハ

一 御所ハ親王泡え歳暮ハ祝儀八米十石内ニ春めし黄の服本ニんニ梅尾長鳥の模様ニ

一 准后泡え八米十石黒地ハさき帯一まし系る使長橋泡

親王泡ハ一所ニ系りそへ使右京大夫ハ祝酒引有敏宮泡和宮泡孝宮泡えハ表ぬ一疋つゝハある系る敏宮泡えハ正月めしハ紫和宮泡え同断和宮泡孝宮泡えハ服料銀十枚つゝ系るハ歳暮ニ長そし泡かきし一折進上大乳も同断上る親王泡准后泡ハ一折つゝ大乳上るハ

返し准后泡ハ一折下されハ
一 親王泡ハ返し被下無

三十日

一 今朝口向より昨夜得度子ノ刻過ハするゝと濟をハハ事言上親王泡え大寄くハ茶表上る大乳の口上ニあ上る此本と關東方のハ祝儀二百枚金六兩三步つゝハあち按を焼のすき泡始え上おくは泡ハ三兩ハ兒ハ兩人二兩三步新宰相泡え二兩二歩三仲間ハこるゝハるとひ子とも仲居マて七十枚ハす不包き之内侍所一ノ家女始え十枚ハす不包考之清も少ひくし言上少將内侍泡とへ衣ニて廻りニ

一 夕りハ盃一こん旨女中計ハ通り有盃のハ催し申出ヌハ人数ハ三ノ間ニて対面成女中ハ歳暮のハ祝儀申入ハ親王泡准后泡ハ祝儀申入ハ大すき泡ハ初ハ局え系る當年不きつ別當典侍泡衛門内侍泡新内侍泡控ハ丸ハ趣後ハ能登ルハ金一兩つゝ下されハ

越後ぬ能登ぬぬ登ぬえぬ内と物のぬ本ふひとぬ袖入と百疋つゝ被下ぬ
大ぬ乳ぬぬ空ふのぬ用と附ぬ紅縮緬一卷被下ぬ伊良ぬ思しめしぬぬ
ぬ絹一疋ぬ煙草入下されぬ何後とぬするとと濟をぬぬめて度しぬ

萬延二年辛酉正月の六月中

ぬお本へ

二月十九日年號改元
文久元年

甫子

二月十九日

一年號改元文久元年

同月同日

一春日社假殿をん宮

四月十九日

一和宮の親王宣下

同

一後所の宮の御違例

五月朔日

一伊勢公卿勅使御神事入

九日

一もつらん十七日勅使歸京

同日

押小路甫子日記

一 孝翁宮の御違例ニ段々伺有

同廿一日

一 出逢ふ

正月元日

一 四方拜寅刻は行水者刻きん出る出逢成朝りせりては服男りふは手水の采女廻りは入逢成寅半刻前之巳刻ころは祝は焼多ちんはまし葉もりはてうしはくむ出る大寄く旨は盃は通り有女中衆は前ニあはふうとんは雇おくはは兒りふ大は乳始申口にては祝戴は今日のはといさん大すきはは手あり長橋は役奏大は乳之朝は膳も同人之は夕は膳の役奏伊与ぬ

一 關白は初は系賀常は所ニあは對面は三ツ肴ニあは盃給ふはといさん以下男りふ之關白は初は太刀馬代進上敏宮は金三百疋をとい一とこ和宮は同斷參乃宮は同斷上りの准后はえ敏宮は和宮は參翁宮はをとい一とこ金貳百疋をといは附兩人は太刀馬代きん上出會駿河とのは附としめえらん使きて口祝有申刻比はともめ朝りせり出逢成はつゝ後朝りせりくうしははといさん大はきはは手あり長

としの役奏大乳之何をも五衣にておこいせん手ありハさし之大乳
乳髪上附也

一准后のえの祝儀大すぎ初長橋の大乳が金二百疋つゝ上る少將内侍
のえと越後なる

一壹二之由文こ一折宛

一金百疋宛能登る伊賀の駿河との兒の兩人が進上

一親王のえの祝儀大すぎ初長橋の大乳が

一金二百疋宛進上少將内侍のえとしめ兒の兩人駿河とのより金百疋宛
進上此の所におくはの兒兩人が一番の由文こ一つゝおきん上

一親王のえの返し大すぎ初大のちえ銀一枚つゝ杉さら十帖少將内侍
のえ始伊との越後なるえ金二百疋杉原十帖添能登る初兒のえは二百疋
つゝのえをし下さるゝ准后のえより後同断下さるゝのえよりきん上
物有夕りゝうきとりにてのえ二献旨大すぎ初新大すぎ初按を拂のすぎ

のえかり橋の大乳は別段のえ盃下さるゝ次こおくのえ膳の三こん旨
のえ三献め天酌女中男形のえ通り有のえ小盃ものえ通り有のお八百のええ天酌にて
のえ盃給ふ今もんハのえ末をろ出されに
一衛門内侍のえのえ板のえの子進上
一八條中將のえ拜賀に附二種一荷進上のえ三間にてのえ對面成くはのえ間にて
天のえ給ふ今日のえおし

さし出の磯

おこしこんぬ

二日

一のえ祝のえ乃ふよおかし大床子のえ膳出涉成朝りを按^{お脱カ}を拂のすぎ初少將内
侍のえとる系賀の對面成准后のえのえのえ使二種壹荷おしお取ひ上
のえのえ目録有親王のえのえのえ祝のえ太刀一腰のえ馬代三種一荷上くのえ
のえ使高松のえ人使ハ准后のえの表使之のえ祝おしお引三百疋下されに

添使の引百疋戴るをい

一 今日親王の行啓の所親樂にて不系断仰入の

一 こかより白銀十枚附臺こ外はこま板はこまの子指使長橋の

一 准后の銀五枚系る使長橋の系り

一 親王の准后にて祝酒引有使人使右京大夫の祝酒引有

一 敏宮の禮不系年玉色奉書五帖上の和宮より年玉鳥子千

代紙五十枚上クの禮不系昨年までハとし玉一所上クの

へとも今年より別上クの大すき年玉はりえ二すしつ下され

は兒の兩人えはふまさんちやく一つ下され

一 夕方の取初て一こんが長橋の別段はさりつ下さる次は請取

て二こんが二献め宰相典侍の少將内侍の与る越後能登る別段

盃下され

一 こかくはの膳は三こんが三献め天酌の女中男りは通り有は小盃

もは通り有は本はえ天酌にて盃下され

一 是末を給ふ四十六人の湯殿えくこのはちん上るはくおしは表出る

菊の下水

三日

一 ははそそ乃ふおおしはせいさん大すけは手あり長橋の役奏大

乳

一 朝は膳のせいさん宰相典侍の手ある衛門内侍の越後之朝りる大

すきの衛門内侍の役奏越後系賀の對面成

一 有栖川宮の父子伏見兵部卿宮の系り常は所にて對面は三ッ肴

ては盃給ふはせいせん以下男りは太刀馬代進上三仲間より例之通

りは祝儀きん上准后の象上膳は三人は乳は年寄は礼は口祝は祝はく

し下さる

一 内侍所木作初はするくと濟は言上

一 此百性^ト此祝儀きん上夕方請取にて二こん系る二献め別當典侍^ト此衛門内侍^ト此新内侍^ト此以賀^ト此別段^ト此盃下さる、駿河とのえ此去^ト此下され此次^ト此こ和く此の此膳^ト此三献^ト此三こんめ天酌^ト此女中男^ト此は通り有^ト此小盃^ト此は通り有^ト此おま^ト此泡え天酌^ト此て此盃下され此今日^ト此はとく日ゆへ此末^ト此ろハ給^ト此は湯殿^ト此くこの此多^ト此ちん上る此表^ト此はく且し出る

玉嶋川

四日

一 此朝の物をし取ひ朝此盃^ト
 一 今日親王宮泡り^ト此え此使初^ト此末^ト此ろ一本つ、奉書^ト此て系る今日^ト此は此祝^ト此き申入^ト此長橋^ト此を^ト此へ衣^ト此て系内殿^ト此は廻り敏宮^ト此泡より此鏡^ト此を此泡の此多^ト此ちん女中衆^ト此え下さる、孝^ト此宮^ト此泡^ト此も同斷^ト旨
 一 敏宮^ト此泡^ト此花崎^ト此使^ト此系^ト此の^ト此三頭^ト此泡^ト此大^ト此乳^ト此殿中^ト此煙草^ト此入^ト此對半^ト此下さる

、按^ト此情^ト此の^ト此き^ト此泡^ト此初^ト此え^ト此殿^ト此中^ト此半^ト此二つ、下^ト此され^ト此は^ト此兒^ト此り^ト此え^ト此福^ト此ふ^ト此下^ト此され^ト

一 親王^ト此泡^ト此孝^ト此宮^ト此泡^ト此え^ト此年^ト此玉^ト此下^ト此ク^ト此
 一 此祝^ト此は^ト此認^ト此は^ト此く^ト此和^ト此し^ト此花^ト此崎^ト此え^ト此下^ト此され^ト此
 一 敏宮^ト此泡^ト此え^ト此手^ト此は^ト此り^ト此三^ト此ッ^ト此玄^ト此ん^ト此を^ト此ゆ^ト

五日

一 此福^ト此し^ト此の^ト此物^ト此を^ト此し^ト此を^ト此か^ト此ひ^ト此朝^ト此此^ト此盃^ト此者^ト此と^ト此ら^ト此祝^ト此き^ト此申^ト此入^ト此き^ト此ん^ト此上^ト此物^ト此有^ト此は^ト返^トし^ト此あり^ト此二^ト此ゆ^ト此ひ^ト此つ、出^ト此る
 一 白馬^ト此節^ト此會^ト此系^ト此役^ト此仰^ト此出^ト此され^ト此
 一 劍^ト此の内^ト此侍^ト此長^ト此橋^ト此泡^ト此璽^ト此の内^ト此侍^ト此新^ト此内^ト此侍^ト此泡^ト此命^ト此婦^ト此能^ト此登^ト此る^ト此伊^ト此賀^ト此
 一 千秋^ト此歳^ト此系^ト此内^ト此殿^ト此を^ト此こ^ト此立^ト此の^ト此は^ト此よ^ト此依^ト此し^ト此事^ト此言^ト此上^ト此八^ト此ッ^ト此半^ト此こ^ト此ろ^ト此出^ト此涉^ト此成^ト此う^ト此つ
 一 舞^ト此て^ト此盃^ト此一^ト此こん^ト此系^ト此る^ト此女^ト此中^ト此男^ト此り^ト此は^ト此通^ト此り^ト此有^ト此男^ト此り^ト此多^ト此此^ト此酌^ト此長^ト此とし^ト此泡^ト此

くむ越後ぬいさり取ハ大乳今年ハ猿の小袖ぬねたんと後茶碗
え渡し

一湯殿初ニ附大すぎ泡かいてうし一枝進上常所ニて盃一こん旨女
中汁通有今日巳刻過

一池庭の橋渡初は樂もん所えはりはい出来ぬくは覽をぬく女中も
拜見有渡り人西池監物西池勝之進西池清彦右三人渡りは祝儀監物
え三百疋父子え二百疋つゝ修理しま三人は金貳百疋つゝ下役兩人え鳥
目壹貫文下ぬ

六日

一物しこの物をしと取ひふ朝盃旨今日ハ日柄ゆへ修日精進
一夕方ちふし上る盃一こん旨女中汁通有

七日

一白馬節會はる卯刻朝の祝多くなりしのゆり出る朝膳はふちぬ

りこく出る午刻ころは表くし朝をぬくうしぬ

一按を埴のすきを新内侍ぬれとぬ廻り午刻過出成刻きん出る朝を
ぬこぬ服男りぬ

一劍内侍長橋ぬ重内侍ぬ新内侍ぬ命婦能登ぬ伊賀ぬ之膳出るくまニて
入成西刻比内馬は覽出成今日ぬ

一親王ぬ准后ぬ不系和宮ぬの上臈二方若衆拜見ニ系ぬ言傳ニ上
をさり取上の

一ふり松ぬ小性おるを初中臈出御拜見ニ有節會上臈初三仲間
局く此人をぬらん有夕り七草ニて一こん系るぬといせん手あ
るりけ帶役奏とへ衣著用次ニこぬ膳は三こん旨三献め天酌
ぬ女中男りぬ通有小盃をぬ通有末を給ふ今日系賀は對面
成ぬぬし表出る

水山吹

八日

一 今日内々門跡梶井座宮^カ仁門^カ聖門^カ不系^カ太馬代^カ上^カ年玉
 仁門^カよりりうを紙聖門^カの^カはふふ一そこ上^カの^カ
 一 親王^カ敏宮^カ和宮^カ夢夢宮^カの^カ年玉^カをの^カ大^カすき^カ初^カの^カせし
 玉下^カさる^カ
 一 知^カおん^カ院^カ宮^カの^カ得^カ度^カ後^カ年^カ始^カの^カ一^カ所^カより^カて^カの^カ系^カ系^カ内^カ殿^カより^カの^カ系^カり^カ常^カ
 所^カを^カの^カ對^カ面^カの^カ盃^カ年^カ始^カの^カト^カの^カ一^カ所^カを^カ三^カツ^カ看^カて^カ二^カこ^カん^カ旨^カ二^カ獻^カめ^カ天^カ酌^カ
 之^カ得^カ度^カ後^カの^カハ^カせん^カニ^カ本^カふ^カふ^カう^カと^カ出^カ不^カ申^カ盃^カ濟^カク^カの^カ申^カ口^カえ^カ成^カふ^カセ^カの^カ
 花^カ鳥^カの^カ間^カを^カの^カ對^カ面^カ成^カ口^カ祝^カ出^カる^カ手^カつ^カり^カ三^カ番^カの^カ文^カこ^カ之^カ内^カの^カ文^カち
 ん^カ一^カ對^カの^カ人^カ形^カ一^カツ^カの^カ袖^カ入^カ二^カツ^カの^カて^カふ^カの^カ文^カち^カん^カ一^カツ^カ入^カの^カは^カく^カ和^カし^カ出
 る^カ申^カ口^カを^カて
 一 膳^カ出^カる^カ乳^カ人^カの^カ供^カ系^カの^カ申^カ口^カを^カて^カ口^カ祝^カ長^カ橋^カの^カ盃^カ下^カされ^カら^カへ
 の^カこ^カん^カ出^カる^カち^カ橋^カの^カ酌^カ大^カ乳^カ之^カは^カく^カ出^カる^カう^カち^カた^カの^カ著^カ用^カ今^カ日^カ宮

の^カい^カさん^カの^カ手^カあり^カ役^カ奏^カう^カち^カた^カ之^カ衛^カ門^カ督^カ刑^カ部^カ卿^カ治^カ部^カ卿^カの^カ礼^カニ^カ系^カの^カ
 申^カ口^カを^カて^カ口^カ祝^カの^カ認^カは^カく^カ和^カし^カ戴^カる^カを^カ仁^カ門^カの^カ乳^カ聖^カ門^カの^カ乳^カ兩^カ人^カハ
 宮^カの^カ不^カ系^カの^カへ^カ長^カ橋^カの^カ盃^カハ^カ無^カ今^カ日^カ

一 二條^カの^カは^カは^カくり^カ松^カの^カ鉢^カう^カへ^カ上^カの^カ今日^カの^カ修^カ法^カを^カて^カは^カふ^カを^カの^カ
 の^カ撫^カ物^カ出^カさ^カの^カ少^カ將^カ内^カ侍^カの^カを^カと^カへ^カ衣^カを^カて^カ廻^カり^カ之^カ親^カ王^カの^カの^カち^カて^カ物^カハ
 是^カま^カて^カ宮^カの^カ時^カ分^カの^カを^カ出^カされ^カ准^カ后^カの^カ表^カえ^カ三^カ卿^カの^カ廻^カり^カを^カて^カ乳^カ
 人^カも^カち^カ出^カの^カ敏^カ宮^カ和^カ宮^カの^カ夢^カ夢^カ宮^カの^カち^カて^カ物^カ表^カを^カて^カ出^カされ^カ隨^カ心^カ院^カの^カ
 の^カ修^カ法^カニ^カ附^カ二^カ種^カ一^カ荷^カき^カん^カ上^カ妙^カ勝^カ定^カ院^カ宮^カの^カより^カこ^カん^カぬ^カ一^カそ^カこ^カの^カ樽^カ代^カ三
 百^カ疋^カ上^カの^カ
 一 織^カ君^カの^カ微^カ妙^カ覺^カ院^カの^カより^カ祝^カ儀^カ仰^カ入^カの^カ今日^カより^カち^カも^カつ^カの^カあ^カく^カの^カは
 焼^カち^カん^カの^カま^カし^カ下^カの^カ

九日

一 朝^カ物^カを^カし^カて^カ罷^カひ^カ朝^カ盃^カ旨^カ

一 准后泡今日猿まんさいに附^て内^に成^らせ^ぬ入道准后泡近衛大納言泡え^に焼^ちん^にま^し旨

十日

一 今日諸札小^に所^へ出^し成

一 近衛大納言泡^が年玉上^りの^り親王泡^も上^りの^り二條泡^仁門^泡聖門泡^え年玉例^え通^り上^る妙勝定院宮泡^と妙覺院泡^え焼^ちん^にま^し旨

一 不きつ^のり^さより三種^の泡^看せ^し日大^すき^泡初^四人^{より}三種^の泡^看進^上年^日の^人に^金百^疋つ^てん中^半煙^草入^に添^下され^ぬ不^きつ^の人^に人^形一^つ下^{され}ぬ

十一日

一 神宮奏事始小^に所^へ出^し成^つま^に拜^らる^をの^り濟^クの^り神宮^の傳^奏え^くは^の間^にて^天に^給ふ^神宮^の法^樂有^小所^に出^し成^よま^上ケ^有

敏宮泡和宮泡孝宮泡世話卿え紙入一ツ^に盃^{一枚}に^用り^り紙入一ツ^まん^ちや^く一^つ年^玉下^{され}ぬ^るう^に廻^し申^入ぬ
一 有栖川宮泡^が年玉上^りの^り父子泡^が三^頭泡^駿河^との大^に乳^に煙^草入^旨

一 此^所方^も紙^入二^つ下^り

十二日

一 賀茂下上^ふう^し始^小所^に出^し成^に法^樂有^よま^有
賀茂傳奏え^くは^の間^にて^天に^給ふ^司入^道准^后泡^が玉^上の^り親^王泡^孝乃^宮泡^えと^し王^系る^明日^に日^柄に^夜し^よく^より^に精^進に

十三日

一 朝^の物^心し^てあ^ひふ^{今日}修^日に^精進^に修^法を^ふ城^に成^らせ^ぬ准^后泡^も一^所に^成ら^せぬ^入成^准后^泡の^上藤^三仲^間も^系ぬ

一 夕方てうもんニ出涉成今もんより宰相典侍泡伊賀ぬ春の由まり願て
て由神事入之

十四日

一 由あしぬの物をし花ひふ朝由盃旨今日由修法由するく、と濟クの由
あて物返上宮泡りさの由撫物返上有由導師より三種一荷進上由導師え
由對面成天さい給ふ

一 今日親王泡行啓成常由所て由三ツ肴て由盃二献者二こんめ天酌ニ
あ由戴遊しぬぬり松泡え天酌て由盃給ふ濟クの由て海邊の由間にて
由口祝由祝出る由くあしも出るつ、を三折由紙入由りを附見事成由水
入クの由乳人え天さい長橋泡由酌てくはの由間にて下さるゝぬり
松泡初由祝由さし由くあし出るにりたしゆえも同斷戴りさぬ親王泡か
由花ひん一そこ由肴一折上クの由今日
一 入道准后泡近衛大納言泡え由年玉旨

一 親王泡はつゝを由紙入一組三重の由盃添こかさ由一所ニ出る夕りさせ
しこしの由盃こんぬあもて一こん旨准后泡由出座女中汁由通り有こ
よひ由ちかし上る

一 今日關白泡中納言中將泡より由年玉上クの由
十五日

一 朝の由祝花鳥の由間にてあふれ由りゆ出る由さいせん大すき泡由手あ
り長橋泡役奏大由乳由つゝさみ朝由膳出る由さいせん別當典侍泡由手
長新内侍泡役あう大由乳是も花鳥の由間え出る

一 常由所て七種の由りゆ出る由さいんを大すき泡由手ある長橋泡役奏
大由乳
一 由さいせん由手あり由りけ帶大由乳をむとへ衣て中段のきあまて持
系る

一 朝りせぬ宰相典侍泡少將内侍泡伊賀ぬ之系賀由對面成敏宮泡え由とし

玉指黒ぬり紙入二指
門泡え紙入二指

一 敏宮泡え大すき泡初より玉手さけ之内焼物盃三枚此れもし
入一ツ水入一ツ入上る

一 和宮泡えふんろう竹二重切多花生一とこ上る

一 夢夢宮泡え人形一とこ玉とし玉上る妙勝定院宮泡え玉上り
女中えも玉とし玉下されぬ

一 近衛入道泡え焼多ちん玉とし大乳の心にて上る中山おほい泡同
断

一 志くを院泡え焼多ちん上る正親町ぬえ同断大すき泡の玉多て系
る有栖川中務卿宮泡え玉とし玉

一 兩大すき泡長橋泡駿河との大乳小文こ之内玉さりつま七枚入上る
今年ハ此文こ大すき泡を出夕方せんと出成済みクハゆりゆ

一 こん旨もいきん以下念とへ衣こぬの玉膳は三献旨三こんめ
天酌之女中男り玉通り有玉小盃も玉通り有玉末をろハ玉とく日ゆへ
出させぬくの玉多ちん玉湯殿え上る玉表え玉ぬし出る

拾六日

十六日

一 踏歌節會夕方くし言上有

一 酉刻過出成刻きん出る劍内侍長橋泡聖内侍少將内侍泡之命婦伊賀ぬ

一 一人玉下ち所勞て玉無人玉断申入玉一こんまて出成入成玉内

玉多くりつきにて成クク親王泡准后泡玉一所成ふをぬ

一 和宮泡の上薦おすへ泡拜見玉系り玉ぬしゆ十人計系らる玉認九

もし玉ぬし下さる玉する玉と丑刻過濟クク言上

十七日

一 今日さね打八ッ半ころ玉表くし言上出成成濟クク常玉所てこんぬ

福をこては盃一こん系る

十八日

- 一 今日准后泡え出涉始るをのし申刻ころ出涉成親王泡えは人形一そこは肴一折クのし
- 一 准后泡えは辨當一そこは肴一折
- 一 内侍のし手つり少親王泡えは左つの内は文ちん一對毛うへ一ツはさんちやく入クのし准后泡えは小文こ之内に銀すミ取は紙入一組は香合一ツは文ちんはは多くろ入クのし
- 一 關白泡え父子え銀地の紙入一組に煙管一本つゝる今朝出涉初に附准后泡えは取一折はよを肴一折上クのし關白泡え父子は肴一折つゝ上クのし申半刻過は三ツ肴をては盃親王泡えも同斷出る准后泡えも出る親王泡え葉もり出るはまゝの口ハ出不申
- 一 以上のをては通りを成クのし濟をのしは一こん出る女中衆櫻えは間を

ては口祝は祝は雜煮はく和し出る

- 一 親王泡えはとし玉を引さし附は文こをは手遊ひ物入上る准后泡え二重切は花生一そこ上る
 - 一 關白泡え中納言中將泡えは對面成は手つり少は紙入下さるゝ
 - 一 亥刻過はするゝと入涉成親王泡えは取一折殿中は煙草入七組上クのし
 - 一 准后泡えは取一折は小さん以上クのし今日のはく和し
 - 一 さし出の磯 花の香
 - 一 白をせふ おこしこんぬ
 - 一 大すき泡初二りむりには札を系るは對面は盃下さるゝ
- 十九日
- 一 今日舞は覽に附はる卯半刻
 - 一 内侍所えはすゝ系るは初を銀一枚は肴一折系る巳刻ころ鶴の本ふてう出涉成濟をのし南殿え出涉例之通りは對面成はすゝ

宰相典侍の劍長橋のうち花之

一親王准后のえはむるの物は一所に出る敏宮泡和宮泡よりは看一折つ
ゝ上のえはまりの所は不系之

一親王准后のえは看一折つゝ上クの

一親王准后のえはつくもへの膳は廻しに成は敏宮泡和宮泡えはつく
もへの膳はくわし役附系る

一大平樂にては盃有親王准后も出座鶴献出る女中は通り有今日ハ
は表えは盃の催しハ申之及は南殿に祈は祝女中衆より松泡は乳人准
后泡上臈りゝは祝下されは

親王泡の乳人ハこゝろつとめゆは人ゆへは一所に祝下されは

一こんを戴りて申ははをの物ハ内へ廻りは

一酉半刻ころは返るゝと濟をのゝ入湯成ははくもへの膳出るはこい
せん宰相典侍泡は手あり長橋泡役奏大は乳

一は夕膳出る准后泡も一所に出る

一親王泡のあさへ廻しは女中衆も認戴ははくわし

千とせは磯

霜紅梅

一今日も司入道准后泡は日柄よく常盤殿えは引移りあふせゆに附
七種の香青籠は名酒一荷祝のり先外に一番は文こ之内よもん金一枚
銀地の紙入一組はりき附は煙管一本はははふくろは筆せん一ッ入湯
内へのはみこ系る

廿日

一今日靈らんしの宮泡春のは礼み成杉そふ十帖水引は内へはせし玉上
クの敏宮泡和宮泡えは参り宮泡えはとし玉系る

一は對面成は口祝は祝前を出る申口にては膳出るは次尼衆申口はるん
さしたるは祝は認はくわし下されは

一大すきを新大すきを長橋を駿河とのひとぬ大の乳えの本んより下さる

一親王准后のえ成ふせのひ供の衆もまのひ観行院の信樂院の札に
まのひ祝儀金百疋進上の対面成の三ツ肴にては盃給ふ申口にては祝
ひましの認出る

一親王准后のえ札に二紙入り歸へりまのひ九もし出る夕りさ靈りんし
の宮の暇紙入二ツ札とし玉をまのひ敏宮の和宮のより殿中の
煙草入半汁七ツ肴る是ハこあさにて致上の観行院の信樂院のえ
玉の煙草入二つ下されははく和し出る靈りんしの宮のえ三頭の
とぬするりとの大の乳を

講尺文こえ内え持寄の煙草入三組のむつせん一ツはちよく一ツは人形
一ッ入のとし玉上る

廿一日

一は拜有内侍所の法樂小の所は出成よと上ケ有

一今日蓮觀院宮の信敬院の觀實院の札のまのひ祝き金百疋つ進上
の対面成の三ツ肴をまのひ盃給ふ申口をまのひ祝ひましの認下されは月
きの札の花進上の祝ひ認下されははく和し出るは次尼衆え申口下
るは祝ひ認ひく和し出る

一親王准后のえ蓮觀院の初まのひまのひ九もし出る夕りさ靈りんし
の暇の時分とし玉の煙草入例え通り下されははく不系のりさくは傳
へのるうこと下されは

一和宮の此程關東の祝儀をまのひ品はとんは五卷上クのひ

一参著宮のえ二卷をまのひ

一は三頭の大の乳えはとんす一まのひ

一按を拂のすきを宰相典侍のえは綸子一反つ別當典侍の新すけのえは
むり綸子一反つ少將内侍の衛門内侍のえは白綸子一反つ新内侍のえ

一 ちをりんす一反の兒りさえちりめん一反つゝの与坂河とのえち
 りめん一反つゝ同断一反つゝ三頭をりてん一反つゝ始えは履は
 非縮緬一反つゝ茶くみ白縮緬一ふんつゝゆくこりに下されは
 一 三頭の大乳ハルとんすこは綸子一反つゝ添は与ぬするりとのハル
 ちちりめんこはとんす添

廿二日

一 内侍所えち系り初に附太刀一腰判金一枚を着一折系る
 一 今日瑞龍寺の礼に成杉原十帖水引の内とし玉上クの
 一 敏宮の和宮の参り宮のえちとし玉指
 一 常の所にて三ツ肴にて盃二こん旨はせいさん手ある役奏う栲ま
 著用瑞龍寺の酌にて大すき初通り有濟クのひまの間にて
 一 対面は口祝出る申口こは祝は膳出る供尼衆え申口にて口祝は祝
 一 認戴るをゆくおし出る心淨院の觀世院な知光院の蓮正院の玉蓮院

一 泡の礼にち系り祝き百疋つゝ進上
 一 対面成の盃下されは申口にくは口祝は祝は認下されは百御所上膳
 一 盤の所上膳の礼は口祝は祝は認ゆくおし出る瑞龍寺の初
 一 親王の准后のえち系り瑞龍寺のちりへり系り暇は紙入二ツはとし玉
 一 下されは敏宮の和宮の参り宮のより殿中の煙草入半升七つゝえんせ
 の
 一 心淨院の初りへりち系りにて一こん出る暇の時分は煙草入下
 一 さるゝ不系のりさゝは傳へに成ゆくおし出る
 一 和宮の親王宣下來月十七日巳刻ト仰出されは事長橋のち大すき初
 一 仰出されは悦申入は口向え駿河とのにて仰出されは大乳より三頭
 一 文申渡ス
 一 今日の上は大すきをせしめより年玉に不棚一とこきん上致は

廿三日

一今日知おん院より宮内府に昨冬入寺に得度するべくと濟々の附
 兩人町奉行給り物有傳奏衆を申渡されしに附大すみの守に六歌をん越
 前守えこつ々のいふまじし大乳出會て戴るを
 一大すき初えとし玉紙入一つふかうちむさし一本つゝ陸
 丸なえ本一箱よみ丸なは印籠皆貝下されはしくし初めせぬ

廿四日

一今日御會始に人數の人々詠進有衛門内侍に此度は人數をくむるの
 乃能一折進上
 一申刻ころ小路所へ出涉成入涉成常涉所を初盆二こん集るはそいさん
 手あり通有菓子

和歌浦 若草ま

廿五日

一昨日より少々心なきて今朝は假床を成くの今朝より内

は精進之女中も精進之聖門に誕生日に附小のまゝ一客のてうし
 一枝上くの萬里小路を拜賀に附をい一と進上はりを心なを初
 對面は沙の無天を申口にく給ふ

廿六日

一仁孝天皇様に祥當に成られはに附般舟院に白銀十枚に法事料に出る
 一兩寺之代香長橋に集り備へのはくおし心さしも有香花
 一親王のはくおし二色上くの
 一准后のはくおし上くの
 一敏宮のはくおしこの花上くの和宮のはくおし文まん上りの女中よりよま
 の島上る三仲間をもち上らるゝ大すきを初殘されはり
 長橋の大乳よりおま一筒上る
 一こまより親王の敏宮の和宮のはくおし二色つゝまんの

廿七日

一今朝長としは上り之

一准后は方は精進せきニ附は着三種上クハ敏宮はより藤崎使ニ召は着上クハ今朝は清めれば湯浴ふセハ所はせさくハ泡ニ召は沙ハ無

廿八日

一朝は盃旨此度和宮は關東えは縁組ニ附は祝きとして内々大すき泡初駿河とのまて

一金二十兩つハ雇おくは泡え同断は兒ハ兩人え八兩つハ三仲間廿三人六兩つハ雇二人茶くみ三人え三兩二分つハ

一壹兩二分つハむつりさ兩人ハ

一内侍所刀自五人え三兩二分つハ

壹兩壹歩つハ

三步つハ貳歩つハ

侍二人え
針妙二人え
仲居三人

一新宰相はえ二十兩ふり松は初え三十五兩敏宮は上臈初え同断

一和宮は上臈初え四十兩孝考宮は上臈代は初え三十兩准后は家上臈三人

え三十兩は乳は年寄え八兩つハ中臈は小性六人え四兩貳歩つハ三え

間七人え二兩二分つハ雇四人え壹兩二歩つハ仲居四人え三步つハ

一蓮觀院は初え三人え十兩つハ三仲間え三兩つハ觀行院は秋觀院は孝

順院はえ十兩つハ信樂院は妙染院はえ八兩つハ三仲間え三兩つハ新清

和院様上臈三人え九兩つハ下臈三人え七兩つハ三仲間え二兩二歩つ

一 心淨院はえ九兩觀世院はえ七兩知光院は初え四人ハ九兩つハ下臈二

人え七兩つハ三仲間四人え二兩二分つハ門院はの年寄兩人え二兩二

分つハ故宮はのちむつハ二兩二分つハ傳奏し也より包分て奥え上

クハ長橋はより夫ハハ傳へニ成ハ右ニ附所司代ハ挨拶使長橋は

より一所系ハ

一 神くう大すきはえ仰出されハ一所ニ春のハ系ハ願ハ登ハ願ハ

れは神事入之

廿九日

一有栖川宮泡より正親町大納言ぬえ諷誦願文は相傳之附は肴一折上クのく
右之附は肴一折奉書にてクのく夕方春日祭は神事入手おし多くしや出
さるゝは下り別當典侍泡新すき泡少將内侍泡之

二月朔日

一朝は盃は神供大すき泡は系向をふのは初尾百疋者今朝准后泡は月水
之泡は下りは表口向え仰出されは親王泡よりは祝儀仰入のくは取一
折上クのく
一大すき泡能登る春のは系りはくは進上朝るをる大すき泡衛門内侍泡は
せぬ夕りは泡丸火入之泡は行水はくしのは湯ハ此奉とよりはりを心泡
之泡は沙之無は清め之は火之ち煙草奉んその外は道具は清は之はり

へにては膳のは茶はん昨年のは茶はん残し置はよりそのは茶はん出る
一内侍所えは丸火之附は之つ本銀一枚者こよひのは盃は三こんを一こん
之重のくは假床へ出る常は所之は通り有女中計男り之ハ免し不申は表
え申出は

二日

一春日祭は當日はりき物はふをのくこあは瀬戸物五品金五百疋入
一孝養宮泡は瀬戸物三品金二百疋上クのく敏宮泡和宮泡ハは月水之泡上
クのく親王泡より瀬戸物五品金貳百疋入上クのく大すき泡初例之通り
はりき物上る夕方はくし取有初かうしんのはくしハは延引之成

三日

一今朝は神事とをさるゝ巳刻比准后泡は上り朔日のは肴一折は上り之附
は花はよを肴上クのく
一親王泡は神事とをさるゝは肴一折上クのく別當典侍泡新すき泡少將内侍

一 泡上りゆて進上之

一 今日關東使參内例之通り進献有ふとひより庭ニ日々まつち出れ也へ
内々花さんぬの社之中山ぬか傳へて祈禱仰付ぬ一夜神事ニ
て祈禱のよしにて今日供物中山ぬか上ぬ初を銀三枚出る親王
泡か二百疋同斷准后泡か中山ぬか傳への様ニとするものと出る
年始の泡樽さり取ぬくも内侍所泡樽着る

一 親王泡准后泡え系る泡使表使之

一 敏宮泡和宮泡え泡樽着る多みて系る大すき泡初ぬくも

一 今日關東使え泡用るふの泡對面るふをぬ事駿河とのにて儀奏
しゆへ仰出されぬ將くん家より白銀百枚ぬうきく千丁三家か太刀一
腰馬代もん金一枚つゝ進まん所司代な太刀一腰馬代黃金一枚高
一家か白銀一枚太刀刀脱カこしきん上長橋泡大泡乳は金貳百疋到來

四日

一來ル六日仁孝天皇様泡祥當ニ付兩寺え泡代香泡表え仰出されぬ

五日

一 仁孝天皇様泡祥月ニ附泡代香兩寺え宰相典侍泡系向泡香泡花泡備へ
のゆく和し心はしも有

一 今朝修日泡精進之ゆみふみ出る泡日供泡着る出る女中しも精進
之

六日

一 膳泡精進今日泡表か兩寺え泡代香泡香泡てあ香内儀より兩寺え泡
代香宰相典侍泡系り泡香泡花泡備へぬゆく和し心さしも有大す
き泡初殘されぬゆゆ泡花上る長そし泡大泡乳も一所ニ上る
一 親王泡准后泡泡機嫌伺ぬゆく和し上ク
一 こあよりハ廿六日ニ敏宮泡和宮泡親王泡えまんだぬへ今日ハ泡
く和しまんだぬ女中衆三仲間よりも今日ハきん上無常泡所庭ニ

てはるはるふさの

七日

今日此精進ときニ附親王准后泡々御看一折上クハ今日關東使御暇
參内ニ亦多ク所ニて菓酒給リハ物も有

八日

一今日小此所ニ亦此當座三十首出涉成ハクハ

ミハ雪 梅の花もち

一寂輪院此程方よ本と御所勞のよしニて此尋ニハクハ御看三種
下さる

一和宮泡此本と方此り心泡ニクハ尋ニハクハ二色御看三種皆

九日

一今日上丁ニ附小此所ニ亦此備へ上る此拜ニ出涉成ハてうもんはふせの
ハクハ

ミハ雪 椿もち

一中宮寺泡此るうし此をろめニ附杉原十帖金三百疋こんぬ一もこ氷こん
みやく一もこ進上敏宮泡和宮泡孝善宮泡えこハクハ一多ハこんぬ一も
こつゝ系る

一親王泡え杉原十帖こんぬ一箱こハクハ一多ハ准后泡えも同斷此三頭泡
大此乳えこハクハ一多ハつゝこんぬ五十本つゝ按を坊のすき泡此初ハ
こハクハ一荷こんぬ五十本

一母儀少將内侍泡えこんぬ五十本こハクハ一多ハ金二百疋駿河とのえこ
んぬ三十本こハクハ一多ハ下されハ

一ちり松泡えこんぬ五十本此乳人えこんぬ三十本准后泡の上臈ハこんぬ
五十本大貳え三十本皆

一御所より中宮寺泡えこんぬ二百本此使取次ニて系る親王泡こんぬ百本
系る敏宮泡和宮泡孝善宮泡よりこんぬ一もこ宛非常附使番ニ亦皆此三

頭の大乳よりこんぬ五十本つゝ上る按き埒のすきな初々延紙十石
く上るゝ駿河とのよりこんぬ三本本上るゝ兒りゝ履なハ進上
物無

十日

一和宮泡此本とより此風氣兎るくさつそりと遊しりち湯も出来クハ
及來ル十七日親王宣下此延引此斷仰入の今日ハ徳日也へ明日此延
引此表え仰出され

一有栖川宮泡をしやと此くおし上クの親王泡えも同斷茶る

十一日

一神宮此法樂此小座敷ニあよまる有

一和宮泡昨日此斷仰入の此通親王宣下此延引仰出され此口向三頭
え申渡ス

一知おん院泡此得度後勅會此法事此するゝと濟をのゝ此礼此り合ニ

此此系りまつり此の間願之此小座敷え召され此對面此口祝此重着ニ
此此益茶る此くおし出る此法事濟ニ付三種二荷此内ゝ杉折此くおし
上クの

一此得度此するゝと濟ニ附坊官は

一金五百疋此家司え五百疋侍しゆえ銀十枚此乳は支度金二十枚下され此
院家の銀三枚下され此是ハミカゝ此を和卿をる橋ぬえまゝ此口ニて
此渡し申此

一知おん院泡え此手つり此此まつ之内

一つ、此此煙草入二組燒物三枚重の此ちよく此本ふま二本入茶る

一今日此燒参ちん此乙てニ親王泡え茶る大乳の口上ニて末のしゆ茶
る

一敏宮泡和宮泡えハ尾張より上られゝ蓮觀院泡此系り此認此一こん此く
おし出る

十二日

一今日知おん院大僧正年始之系内ありしのも札勅會の法事たる札系内
の對面成白銀五十枚のさほや十卷杉原十帖くじんしゆきん上

十三日

一修日^ての精進の代香の表より香の花系る

十四日

一昨夜より秋寛院のよふとく御所勞の由の尋にゆくかし香三種下さ
るゝ先々つゝまのよしこ

一准后泡方も尋下されぬ

一延引初りうしんゆくしの初をぬん後之に備へ上る膳ふりゆ
出る女中も認りぬ戴ぬ

一下の靈社え猿三ツの初穂二百疋今日大乳之局より出る

十五日

一今日益もん會ゆりき物例之を通り親王泡方杉原十帖のさほや一まに准
后泡方同斷上クの

一敏宮泡方二番文こ之内白縮緬一反赤角取一組入上クのこあさこてゆ
さいく紙入五ツある袖十縫とりぬぬこ入二組の初二ツの人形一ツ
の盃三枚ゆりむさし一本をらうち一本ぬまをる一本ぬさし致ぬ和宮泡
ハの祥忌の湯出来クぬぬゆりき物上クぬ後參宮泡方二番くろ無地
の文こ之内非縮緬一卷ぬさいく紙入五ツ角るうしさし十赤地角取
の紙入一組縫取の煙草入二組の袖入二ツの盃三枚の人形一ツかさりの
ゆりんさし一本をらうち一本ぬまをる一本入上クの是ハこあさこて
致上ケル

一知門泡方一番の文こ之内白綸子一反つゝをぬ煙草入一組の盃一枚入上
クの聖門泡方の文こ之内白縮緬一反の板べおもし入上クの中宮
寺泡方白縮緬一反の盃三枚入上クの

一圓照寺宮袍方白繪子一反也盃三枚入上クの關白袍方紫板び一ふん也
 文こニ入上クの也表向聖門袍より杉原十帖ニ水引知門袍方壹二之也
 文こ一折靈りんしの宮袍方杉原十帖水引中宮寺袍方一番の也文こ一ツ
 圓照寺宮袍方杉原十帖水引輪門袍仁門袍梶井袍方表向計上クの也表
 當番儀奏近習外様の衆方也文こ上るゝ大すき袍初長橋袍大也乳方島
 縹子のおもし一すし上は
 少將内侍袍也初伊与ゑ越後より黒無地一番の也文こ一ツゝ同斷也兒
 也兩人雇おくは袍也せゑ初二番文こ上らるゝ親王袍准后袍え也表向大
 すき袍也初長橋袍大也乳より一番文こ壹つゝ少將内侍袍也初也与ゑ越
 後より二番文こせゑ初小文こ黒無地一番也兒りゝ小文こ一番もく
 繪一ツゝ

一親王袍えおくは袍方無地黒二番文こ
 一准后袍えハおくはき方ほりき物進上無

一親王袍申刻過ほくし取あふせぬゝ大すき袍長橋袍也与ゑ大也乳戴ニ系
 る下段にてほくし夫ゝ名代にてほくし戴は夕方也三間にてほくしほ
 ふせぬゝほくし紙の也通り出さるゝ大すき袍初えほくし下さるゝ也表
 えもほくし紙出るほくし紙之通り出るほくし尾張初え戴るを也
 一也内ゝほくし取あふせぬゝ也名にてほくし紙の也通り出さるゝ女中衆
 もほくし戴は

十六日

一中宮寺袍え昨そんの也くしの也品年始の也空し玉也好切也紙入二ツ也
 一所ニ系る秋く日ん院袍御所勞の所追ゝ也むつりしを也尋は銀五枚觀
 行院袍え向下されは
 一准后袍方三枚下されは親王袍とんとゝ也馴染もあふせぬゝ下さ
 れ無當年中の也知行也拜領也願出る
 一也樂もん所也當座二十首出涉あふせぬゝほくし

福さり渡ぬ所 おくふ文ん

一和宮泡の比多く類比縹珍比紫比とん比地何る出来の比覽ニ入の比
按を埒のすき泡かとひハよ本とく比所勞之所追々比全快ニて今日
比心祝ニ附一臺肴高橋え比申附比進上比吸物比進上比以て尋遊比辨
當一もこ金五百疋下さるゝ大すき泡初比臺肴おもふい申比右ニ附大す
き泡初か比肴五種比精進まちニて上比昨年比上りの比時分大すき泡大
比乳比見事成比臺の比肴おもふい申比ゆへりらり色の比手福多り一も
こ兩人が別段ニ上比

十七日

一と取し

十八日

一比拜有内侍所え比系り二月分十月分比初穂銀一枚つゝ比供宰相典侍泡
長橋泡大比乳之

一敏宮泡えと妙覺院泡成ふセの比付こあふより比杉折比く和し系る
一改元ニ附奏もん有長橋泡比廻り之

十九日

一今日改元比當日内侍所え比肴一折比鈴比もつ本銀一枚比百度有比初尾
銀三枚肴親王泡准后泡關白泡え比肴一折つゝ系る上卿二條泡え比肴一
折肴とし尾ぬ兩人え比肴一折つゝ下さるゝ大すき泡初よりするゝ一
折五連きん上三仲間より三連諸家か比肴きん上有
一敏宮泡和宮泡孝孝宮泡よりかさい一もこつゝ上クの比こあふかさい
一もこつゝ上クの比諸家よりきん上之比肴一折つゝ兩役のしゆえ下さ
れ比比附兩人えも比肴一折つゝ下され比
一比上親王泡准后泡え比吸物比重肴出る女中衆比祝酒戴比高松泡比乳人
お八百泡比初比乳比年寄召比て比祝酒下さるゝ關白泡上卿兩役のしゆ
系役堂上りゝ近習え比吸比重肴比鉢肴出る大すき泡初比夜しよく比認

戴は未刻ころ出涉り三度之年號改元爲文久元年

一親王准后の御系り中を御召さるゝの御事にて長橋の御申入之由り松の御八百の召され申渡之御敏宮の御和宮の御え仰系る夢夢宮の御えも仰系る

一大すき御初長橋の御申渡さるゝ御祝申入の御頭々口向えも申渡す口向えハ右京大夫にて申出る

一關白の御初御役し御近習一同より御乃取一折つゝきん上有栖川宮の御父子兵部卿宮の御より御看一折上る今日上り合するゝ奏者番戴りを御

廿日

一昨日改元ニ附聖門の御始よりこんぬ一折つゝ上クの坊城右少辨の御拜賀ニ附をさい一もきん上の三間にて御對面成くはの御間ニく天の御給ふ今日南都西三位の女御下ニ召出され女藏人の御の御名を今系りと下されはまくに髪中ニりへ清々湯致髪上附五衣にて御宮系り有常の御所

にてこんぬ御事にて御盃下さるゝ

一花鳥の御間にて御對面成申口にて御口祝紅袴こまの御糸もし一疋は紅一疋被下は

一親王准后の御え御礼ニ系らるゝ御り御糸もし附帶もつ支袴も大すへららしをん入は御對面御祝酒下さるゝ今日か三日ケ間御認下されは世話親大御乳の御表口向えも仰出されは傳奏し御え知行の所よろしく御取計御座はるうに仰出されは御看一折上らるゝ

一大すき御始の御土産御硯ふゝ有上らるゝ今日新内侍の御をろ宛ニ附御乃取一折こかく涉一寄はてうし一枝進上親王の御えこかく涉一寄は御此し進上准后の御えも同斷敏宮の御和宮の御夢夢宮の御え同斷進上の御三頭の御いよる駿河とのこかく涉一重つゝ下さるゝ按を拂のすき御初えこかく涉一荷申口え出る夢夢宮の御返し御あり二ゆひ下さるゝ

一御三頭の駿河との大御乳より御文こ之内ニ鳥糞子のおもし入上る按を

栂のすきぬはしめかするく一折系るは上り此の時分とあさくよ
りもいろくは到來ことして見事成は硯笥さ香出る

廿一日

一昨拜有内侍所は法樂は小座敷に出涉成よみ上ケ有長福寺家俊峰は八十
八年賀に附は参ちん一重こんぬ三十本梅せん院より願にて今日き
ん上は内々俊峰は遊しは繪は焼物のは文具きん上之親王はえは参ち
ん一重せんめん進上こあさより取る三ひ金五百疋内々織物三と
くは紙入一ツは水入壹ツは人形一ツ下さる親王はより返し金三百
疋は内々袖入毛うへ焼物は香合下さる

一大すきを初一同えは参ちん一重系る右に附大すきを初より一番文こに
もちよりいろく入上る

廿二日

一昨日有水無瀬宮は法樂は小座敷に出涉成よみ上ケ有

一廣橋宰相も今日より番四九にて其度々に親王はの手あふひ拜乙の
事仰出されは

廿三日

一今日敏宮は誕生日に附小はささ一参は看一折上クのく右に附こ
あさよりはよさをさる取一折系る

一今日敏宮は宰相相典侍は能登るあささ江坂決し系らるはとつて
に二番文この内焼物いろく入系る宰相相典侍はせぬは看三種上ら
る藤崎としめはまん百系る今晚は辨當始親王は准后はもは辨當之女
中衆も辨當之

廿四日

一此度東本願寺無妙覺院はもせの津へめんせのくは附は礼系内小は所は
出涉成は多く男りさ對面成此度雲龍院より銀千枚拜借願出願之通り
出されは是月きいぬは願こく年くは五十枚つ返上之請書系る

一親王の夕りさゆくし取あふさゆく大すき初召クのく大すき初の名
 代按を埒のすき初長橋ゆよるまゆく代くしにて何をも戴ゆ
 一埒所のゆくし初夜ころゆくし取あふさゆくゆくし紙のは通りまゆさゆく
 女中衆も戴ゆ

廿六日

一今日をん山えゆ代香ゆ表ゆ香ゆてあまる

廿七日

一今日内藤東市佐九十賀に附ゆちんきん上願出願之通り献上仰出され
 ゆ右に附ゆちん一重は肴一折きん上ゆ返しにはある二ゆひ金三百疋
 出されゆ

一夢夢宮ゆえもゆちん一重上るゆ返し金貳百疋下されゆ尾張え出ス

廿八日

一朝ゆ盃旨夢夢宮ゆ今年とゆ初節句に附三十日ゆ系内仰出されゆ雨あふ

一朔日と仰出されゆ事ゆ表口向え仰出されゆ

一夕りさ春日社假なさん宮に附ゆ神事晦日の朝まで手あし多くしや出さ
 る、別當典侍ゆ今系ゆ手あしにて下らる、

一按を埒のすき初ハ明日ゆ祥忌に附ゆ下り之新すき初亥刻ころ俄にゆさ
 しつりへにてゆ下り成ゆ

廿九日

一今日春日社ゆ假殿さん宮戌刻ゆ湯あふさゆられゆ常ゆ所のゆ庭よりゆ
 ゆ出来ゆ拜あふさゆゆ所雨はよく常ゆ所をさしにてあふさゆゆ内侍所
 ゆ神供ゆ無人に附内侍所え附ゆゆ樂修院よみ初に附ゆゆゆ

新櫻川 見ゆ草まゆ

晦日

一今朝ゆ神事ゆきゆる、

一夢夢宮ゆ今日ゆ系内雨こくゆ延引成別當典侍ゆ初ゆ上り之ゆてあま進

- 一 朝は盃者朝りむる別當典侍は衛門内侍は伊賀ゑ之系賀は對面成は樂も
ん所にては當座は通り題出涉はふをの
- 一 親王は節句は祝儀仰入の
- 一 肴一折上の、参参宮泡は初節句に附よをさり取一折上の
- 一 准后泡は二種一荷心し一折外に心を取泡えは盃臺は取一折は縮緬
十卷上の
- 一 御所は親王泡えは縮一疋はあは使ふりさたにては拜領多取一折表に
は拜領准后泡え鯉一折は使表にては心を取泡えする、廿連こんぬ
廿連は樽一荷は盃臺は肴一折は紅白は縮緬十卷伊賀ゑは使ゑる系る女
中一同より紅白は縮緬十卷は肴一折は一所に上る
- 一 敏宮泡和宮泡は縮一疋つゝはあは心を取泡えは杉折は盃臺は肴
一折えんをの、兩宮泡より心を一とこつゝ上りの、心を取泡え二
種一荷つゝ上りの

- 一 参参宮泡は初節句に附は心を取泡えをい一とここんぬ一箱は樽一
荷は目録書にては使人形にて上りの、節句のはえうた仰入の、心を
い一とこ上りの、心を取泡えする、十連こんぬ十連は樽一荷は盃
臺は肴一折宮泡ええんをの、は縮一疋はあは表向上りの
- 一 親王泡え参参宮泡より二種一荷は使人形は目録書にてえんをの
- 一 敏宮泡和宮泡准后泡え同斷系る准后泡は女中衆えをふのは祝は心を取
泡のは肴は重之内下さるゝ敏宮泡和宮泡よりは重之内下さるゝ参参宮
泡よりは硯多を肴下さるゝ衛門内侍泡よりは吸物は出し敏宮泡和宮泡
は女中一同よりは硯多を肴上る
- 一 参内殿にてせふきは覽をの
- 一 申刻比入涉成まくにこよひのは盃はふをの、は三こん指は三こんめ天
酌女中男りのは通り有は小盃もは通り有参参宮泡はは局えは心を取泡
は覽に成ふをの、大すきは初心を取は覽をの

- 一 此新立にて此一こん出る女中衆も此前にて此一こん戴申さるゝ
- 一 孝翁宮泡の此手遊び物まんのこの衛門内侍泡の此煙草入一組の此人形一ツよろしよ此煙管一本下され此
- 一 衛門内侍泡の此よささり此三種の此きん上孝翁宮泡の此初を侍く二附堀川三位の此初え此祝酒下され此宮泡の若よしゆえも此祝酒下され此
- 一 之く此院泡のお侍泡の此系り二此局え此認此鉢肴此廻し申此當年ハもちより無両大すき泡長橋泡大此乳より手さき出し此伊与る今系る初を
- つく二附此重之内いよなる此出る此硯笥さ肴今系殿は出る夕方は表え両大すき泡の此手さけ此心此取泡の此重一組此鉢さりか二ツ此まゝ三對儀奏近習え出る今日の此くおし

るよひの空 此當座の此くおし
 さいをゝ本ふ 此此取の袖

四日

- 一 來ル十八日此別殿の所此さしつゝあえあふさのこのゆへ十九日相成此此事此表え仰出され此尾張えも申此

五日

- 一 中宮寺泡の此るうしの此礼此系内
- 一 此對面成此口祝汁之申口よく此膳出る准后泡えも成ふせのこの親王泡此
- 一 所二此對面成九もし成此表小此所此池の此庭拜見
- 一 聽雪此茶屋にて此茶の子此一献出る此供尼三人系のこの申口にて口祝此
- 一 認此まんなされ此此まんな酒の此寺ゆへ此盃事ハ無此系内二附此花ひん
- 一 一こここんぬ一折上りの
- 一 敏宮泡和宮泡孝翁宮泡え此文こ之内まんのこの三頭泡駿河との大此
- 一 乳え嶋縹子の此帶一ましつゝ按を此のすき泡初え伯繪一もん此文こ一
- 一 つゝ此とる初此二もんの此文こ一つゝおくは泡此兒此兩人え
- 一 小文こ一番一つゝ此まやみ下さるゝ

- 一 酉刻過九もし成り對面ゆくおし出る
- 一 手つりふりふり手つるあり一そこよろし文こ二番之内は銀地すき取紙入一組はまをた一本はは乃多くろ一は盃二枚入らる
- 一 敏宮泡をさんとの花生一箱
- 一 和宮泡を花ひん一そこまんのめ
- 一 親王泡を紙棚一そこまんのめ供の尼え茶のこは多く所をふふりさる

六日

- 一 泉山え代香は表は香は花指
- 一 瑞龍寺泡より願く攝津中山寺の鬼子母神とそへ神瑞龍寺泡の妙々ん一所を系内にて參内殿は二間をはりはり成
- 一 鬼子母神泡をへ神泡え金五百疋宛は花一筒つゝゆくおしきんしは五りるめ五きん五ツ

- 一 妙々ん泡え備へ銀五枚はそか一筒はくおし同断上る雲はしのは臺へ
- 一 惣女中衆を金貳百疋は三頭泡大乳を金三百疋上る妙々ん泡えも同断上る

- 一 親王泡を三方え金三百疋宛は備へ
- 一 准后泡を鬼子母神泡をへ神泡え金三百疋つゝ妙々ん泡え金五百疋は拜
- 一 成らさめ親王泡准后泡もはこい有女中衆も拜致は高松泡をしめお八百泡は初三仲間も系め局の人々も有奥え出申さぬ人へ右京大夫部屋より系りゆるう大すき泡のは局よりは寄を有
- 一 瑞龍寺泡の尼えは認はくおし戴るを札女中しゆえ系る
- 一 瑞龍寺泡をたお生は盃は花上の大すき泡初えは重之内下さるゝは
- 一 三頭大乳え三枚重の盃一そこ下さるゝ

七日

- 一 今日系内殿は花見をてはるをめ長橋泡を耐一折は重之内外は三種の

昨着進上此夕此膳系内殿ニ而上セケルナリ橋泡え此綾一らん赤地す
 之取此紙入一組此まを於一本別段ニ此着此きん上ゆへて此をんり此
 花生下さるゝ女中一同より寄取一折上る申刻過此間物出る女中衆え此
 さん九もし此前ニくおもふ此賑ニ之今年ハ此内人すもやし有親王泡
 え此文こ之内此進上此返していゝ此人形一此袖入此りんさし一本下
 さるゝ敏宮泡和宮泡え小文こ之内進上此返し此戴之入涉の此時分此文
 こ之内よ
 一此いゝ此人形一ツ此此乃多くろ一ツ此此ま物入此きん上此鉢物二ツ
 進上親王泡准后泡えも進上孝善宮泡えハ此八ツまでハ進上無下されも
 無

八日

一今日此庭の此花此内々此あくさみの此を以取泡儀奏近習え見をのゝ
 此一こんも下され此此まゝみ所ニ下され此此賑ニ之今日此を以取泡え

此立の此膳上る孝善宮泡の此を以取泡えも同断上る

九日

一と取し

十日

一此を以取泡今日此立之

十一日

一此を以有今日准后泡の此を以取泡此覽此花見此一所ニ成ふセケルニ附
 准后泡此よを看一折上ケル親王泡えも此人形此覽ニ成ふセケルニ
 附此よをさり取一折上ケル此内々出涉ニ附親王泡え毛うへの此子此
 文ちん一對此袖入此手つり此指
 一准后泡え此此り花生一も此手つり此此多ニ附此硯もかの此文ちん此
 りんさし一本此袖入此外ニ此くしに白縮緬一卷此此まらう一も此此辨
 常小二も此此附帶三すし此の板此おもし四すし男煙草入三組縫取三組

りはりりんさし一本花のと先一本をらうち三本はくしほふをのし准后
泡よりもはくし上クのくは一こんのは跡にてはくしほふをのし大すき
泡初はくし下されは

一敏宮泡は心祝はふをのし三仲間より四五人系はのし言傳はは看三種者
今日佛光寺系内は對面成は服男りさこ

十二日

一は拜有圓照寺宮泡はるうし後は札は系内は對面成は口祝出る申口に
ては膳出る准后泡え成ふせのし

一九もし成聽雪は茶屋にては間物は一献出るは供尼衆え申口を否は認は
くおし戴りさはは多く所にては茶のこ戴りさはは系りのは時分は花ひ
ん一もこ上クのし

一敏宮泡和宮泡え一番は文こ之内は紙入一組入系る孝考宮泡えは文こ
之内はは手はあひ入系る

一は三頭泡大は乳は二もん文こ之内てん中一對縫取は煙草入一組は袖入
下さるし

一按を袴のすま泡は初一もん文こ壹つはは与は初二もん文こ一つはは兒
りさえ小文こ壹つは下されは

一は暇のは時分は對面成はくおし出るはさほや二卷は花ひん一もこ

一は手つりは銀すま取は組物煙管一本ははま多くろ一ツ下されは

一敏宮泡は花生一もこ和宮泡は手は多り一もこ系る

十三日

一泉山えは代香は表よりは香はも系る

十四日

一孝考宮泡今日九もし成一番は文こ之内はは縮一疋は手遊ひ物入系る堀

川三位なえは縮一疋刑部なえをへま地は紙入一組は

一は盃一枚寂靜院泡え白縮緬一ふんおあは泡え赤地の附帯一ツは袖入一

ツおある泡え人形一ツ袖入をかうちのゆりんさし一本八重岡え嶋
 繻子おもし袖入一ツ家來の銀三枚被下は三位なえは看五種下されは
 一未刻比は幕えまりにて九もし成
 一敏宮泡え按を埴のすき泡長橋泡大乳指は言傳みゆくしの品下され
 一紫板べ一反御紅一疋黒地島繻子帯一縫のおもし一せんすは帯は附帶
 三すしは重一そこ小辨當一箱男煙草入三組袖入一ツかさりのゆりん
 さし一本をかうち三本銀はとし二せんえんをのく按を埴のすき泡とし
 めはは精進まちり五しもの看はみやみ上る藤崎始えはまん百五十お
 くりは

一暇のは時分あを埴のすき泡え角取紙入一は人形一ツ下されは長橋
 泡大乳えは非縮緬おもし一筋つは人形一つは手つりら下されは
 三仲間あは始えはそこ入は人形下されはとの本りは賑はにてう

しの刻通りへり系りは

十五日

一石清水は法樂は小座敷え出涉よみ上ケ有一條左府泡從一位のは拜賀ニ
 附二種一荷進上晝の座にては對面成こあふよりは父子泡は看一折
 つ奉書にて系る

一親王泡え二種一荷進上は返しに左府泡計えは看一折使番口上にて看

十六日

一來ル十八日石清水臨時祭ニ附八幡えは撫物出されは圓照寺泡はるうし
 ニ附關東えは道具料仰立の所濟系りは世話卿は用りよりえ仰出さ
 れは梅さん院泡なり御所勞との本りはむつりしははるう子ニ
 ては尋は銀五枚別段あり勤勞おもしろしは人へ銀五枚下され
 は按を埴のすき泡下り之和宮泡えはせさは尋はは重之内系る中
 宮寺泡えは逗留中尋ははく和し系る夕方石清水臨時祭は神事入手お

し多くしや出さるゝ新すき泡下り火火りへ

十七日

一夕りさ丸火入ニ附内侍所えは鈴系るはくしの湯は行水系る

十八日

一當日はむる卯刻まへ卯半刻は表くし言上はりゝ梨系る出彦成庭座濟
クのゝ入彦成巳半刻之まんとつ午刻過は覽に出彦成内侍所えは鈴系る
はもつ本銀一枚旨今日はくしあらをのゝはてん入ッ之

十九日

一石清水臨時祭ニ附内侍所えは肴一折上クのゝ所昨日ハは殿は精進にて
今日上クのゝ今朝はするゝと濟をのゝは事言上は神事解のゝ手あし
上らるはもか進上今日

廿日

一聽雪は茶屋にて儀奏近習は一こん下さるゝ知門泡かまきのこ上クのゝ

一和宮泡は覺さゝゝ彌はよしゝ泡にては清め出來クのゝ來ル廿三日は
系内仰出されは表口向えも仰出されは

廿一日

一は拜有賀茂下上は法樂は小座敷は出彦成よまほき有今日准后泡藤のは
こかは覽ニ入クのゝ出彦成親王泡准后泡より七種のはよを肴上クのゝ
親王泡えは手つりふ紫地は紙入壹はさんちやくは硯石まんのゝ准后
泡え紫つゝは紙入一組はまをた一本は多てそこまんのゝ外みはく
しのはしあ

廿二日

一きん本ふのは表ニはろゝは二方泡えは一所ニまんのゝ親王泡准后
泡かは一所ニまゝり橋大すみえ仰附のゝはまゝりつま上クのゝさし物藤み
紅葉之親王泡えは初て也へは花ひん一そこ出彦のは時分まんのゝ

一はこい有内侍所え當月のは系りはるせのゝは鈴系るはもつ本銀一枚旨

一 孝善宮泡の誕生日ニ附小^トの^ト一^ト多^トの^ト一^ト折^ト上^トク^トの^ト親王泡え小
 の^ト一^ト多^トの^ト一^ト折^トえん^トを^トの^ト敏宮泡和宮泡え小^トの^ト一^ト多^ト
 の^ト此れし^トえん^トを^トの^ト准后泡えも同斷
 一 此所方の精進まち五種^{リ脱カ}の^ト一^ト折^トク^トの^ト堀川三位^ト始え^ト祝酒廻し^トの^ト孝
 善宮泡^トの^トよ^トを^トさ^トり^ト取^ト三^ト種^ト上^トク^トの^ト
 孝善宮泡の二誕生にて内侍所えハ何夜上ク^トの^ト候

廿三日

一 和宮泡未刻ころの^ト系^トり^トあ^トを^トの^ト關東^トの^トえ^トう^ト記^ト後^トの^トし^トめ^トて^トの^ト也^トへ^ト
 吸物^トの^ト重^ト肴^トを^トて^トの^ト盃^ト系^トる^トの^ト菓子^ト出^トる^ト多^ト堵^トの^ト乳^ト初^トえ^トの^ト祝酒^トは^トく^トあ^トし^ト戴^トり
 せ^トの^ト系^ト内^トニ^ト附^トの^ト花^トひ^トん^トの^ト花^ト臺^ト一^トも^トこ^トの^トよ^トを^トさ^トり^ト取^ト上^トク^トの^ト女中^トえ^ト
 ま^トし^ト下^トさ^トれ^ト觀行院泡^トの^ト供^トを^トて^トの^ト系^トり^トお^トす^トへ^ト泡^ト初^トの^ト系^トり^ト之^ト祝酒^ト下
 さ^トれ^トえ^トま^トし^トの^ト逗留^トにて^トあ^トを^トの^ト日^トの^ト認^ト局^トえ^ト廻^トり^トぬ

廿四日

一 今日系内殿ニお内々^トの^ト内人^トニ^トお^トま^トや^トし^ト能^トあ^トを^トの^ト辰半刻^トは
 始^ト之^ト出^ト涉^ト成^ト親^ト王^ト泡^ト准^ト后^ト泡^ト和^ト宮^ト泡^ト成^トら^トせ^トの^ト三^ト方^ト泡^トの^トよ^トを^ト看^ト上^トク^トの^ト
 關白泡めし上ク^トの^ト系^トり^トを^トて^トの^トよ^トを^トさ^トり^ト取^ト上^トク^トの^ト女中^トえ^トの^ト重^ト之^ト内
 九^トこ^トん^ト下^トさ^トる^ト

一 和宮泡^トの^ト到^ト來^トの^ト看^ト女^ト中^トえ^ト下^トさ^トれ^ト今日^ト兩^ト役^ト近^ト習^ト當^ト番^トを^ト見^ト知^ト光^ト院
 泡^ト初^ト信^ト樂^ト院^トぬ^ト系^トの^ト兩^ト役^トの^トし^トも^トえ^ト一^トこ^トん^ト口^ト向^トの^ト看^ト三^トツ^ト内^ト々^ト
 用^トを^ト申^ト附^ト二^トツ^ト出^トる^ト近^ト習^トえ^トハ^トあ^トか^トく^ト表^トえ^ト同^ト様^トを^ト致^ト出^トる
 一 多^トり^ト松^ト泡^ト初^トお^トる^トを^ト泡^ト初^ト重^ト之^ト内^ト廻^トし^ト申^トお^トす^トへ^ト泡^ト初^トえ^トも^ト重^ト之^ト内
 泡^ト廻^トし^ト申^トか^トく^トる^ト詰^トえ^ト生^ト作^トの^ト鉢^ト看^ト戴^トる^トを^トぬ^トす^トる^トと^ト濟^トク^トの^ト亥^ト半
 刻^ト過^ト

廿五日

一 今日知光院泡^トの^ト暇^トの^ト對^ト面^ト成^トの^ト手^トつ^トり^ト縫^ト取^トの^ト煙^ト草^ト入^ト一^ト組^ト花^トの^ト文^トち^トん
 一 ツ^ト下^トさ^トる^ト信^ト樂^ト院^トぬ^トの^ト暇^トの^ト對^ト面^ト成^トの^ト手^トつ^トり^ト織^ト物^トの^ト小^ト町^ト形^ト紙^ト入

一組控まのゆまを託一本下さるゝ

廿六日

一泉山え御代系ゆ表ゆ香ゆ花系る今晚より東照宮日時定ゆ神事入手あし多くしや出さるゝ手あしハ局え引よあり一刻過ゆ神事入新すきゆおくはゆ下りえ

廿七日

一今日ゆ當日奏もんの内侍ゆ廻り日光使中院ぬ銀五枚下さるゝ

一近衛大納言ゆゆ機嫌伺クゆゆよまさり取上クゆ

一親王ゆゆ三卿ニ附中院ぬえ銀二枚下さるゝ

廿八日

一朝ゆ盃系る

廿九日

一ゆ神供少將内侍ゆえ仰附ゆ

三十日

一和宮ゆ今日還涉成よを肴五種ゆ手つりゆ經師張ゆえつ之内みつゝを折角取ゆ紙入一組ゆ袖入二ツゆ筆掛ゆまを託一本ゆゆんさし一本入えんまゆ観行院ゆえゆ手つりゆゆ綸子一反つゝをゆ煙草入ゆまを託一本下さるゝおまゆゆおまゆおのふゆえやたのおもとふゆりゆひゆ一つゝ藤ゆ乳ゆ桔梗のもよふりゆひゆ玉鳴え本不ゆめりゆひゆ一ツゆりた人衆え六人え附帶一すしつゝ室しも妙香院え同斷ゆ小性えゆり地島しゆゆのおひ下されゆゆ留主の人ゝ銀十枚下さるゝ

一親王ゆゆ組物ゆまを託えんまゆ

一准后ゆゆゆ多てまこゆ水入ゆ爪袋えんまゆ申刻過ゆするゝとゆ退

出ゆゆ表口向えも仰出されゆ

一此ゆ岸筑前介八十の年賀ニ附ゆりき物ゆ繪きん上ニ附二番高ま花へゆ文こえ内よつゝをゆ紙入一組三枚重ゆ盃一もこ入戴るまゆ

一 親王准后泡方も下され物有
 一 今晚より葵の神事入手おし局え引多くしやまはりりハ出さるゝ惣火
 りへる

四月朔日

一 此日有内侍所神供少將内侍泡は系内きふの泡もつ本金百疋旨
 一朝は盃者朝りきる宰相典侍泡新内侍泡れきる之系賀は對面成夜ニ入は
 盃は三こん系る女中男りさは通り有
 一 親王准后泡方も祝義仰入の泡着一折つゝ上クの
 二日
 一 此拜有和宮泡延引の内親王宣下來ル十九日巳刻と仰出の
 一 和宮泡えは勘文玄んさの泡表仰出されは口向え駿河との大は乳兩人
 え内ニお仰出されは所所勞にて引居は也へ右京大夫にて仰出されは

一 大すき泡初えあり橋泡より仰出されは悦申入らば三頭え越後ぬこ
 て脱カ
 仰出されは

一 和宮泡え大すき泡初悦申入の

一 和宮泡當月下旬八もさの泡系詣ニ附供奉のし中山攝津守に仰附の
 此事越後ぬこて仰出されは表えも同斷仰出されは同人之外ニは列外
 の供奉高階筑前介ニ仰付の此事筆頭え仰出されは近衛泡よりいさ
 酒一樽上クの

三日

一 此日有夕りさ別當典侍泡は与ぬ越後ぬ内侍所え春の泡系り願にて
 神事入

四日

一 夕りさより駿河との明日さはりりにて下らるゝ

五日

一今日別當典侍泡伊与ぬ越後ぬとゆの系り有ゆくは進上此口祝有

六日

一と取し

七日

一此樂もん所を此當座二十首出涉成准后泡か此神事中此機嫌伺クク
此よをさり取上クク

一有栖川宮泡かさのいより此とりよをの由にて此肴上クク

八日

一夕方より申口にて此ここの花は覽をのこの一こん此手附ククニ附大
すき泡初か此肴五種外ニ焼物ぬり木戸を以て此盃上る女中ぬ此鉢肴ぬ
いめん此取さり取すもし此用にて致女中え此くし下さるゝ此跡を此三
仲間えも一こん戴ゝるをぬ

九日

一此も此有内侍所え當月え此系り十二月分の此系り此もつ本白銀一枚つ
ゝ此見事の此系りニ附此肴一折系るさい初え此えうた二百疋つゝ下さ
るゝ此祝酒有

一今日此香具のよりえ

十日

一此も此有

十一日

一此も此有神宮此法樂此小座敷え出涉よみ福を有辛酉ニ附伊勢公卿勅使
仰出されぬ日時定五月二日同月九日時辰勅使もつ々ん小安殿行幸同月
十四日時辰此奉納仰出されぬニ附

一此えん願も此えるうしゆ被遊ぬ様ニ内侍所え此鈴此取一折此初尾銀
一枚系る少將内侍泡此月水にて此つ本をえ此引宰相のすき泡大此乳を
しめより此取三種上る

十二日

一 准后泡よへ方泡月水にて泡引遊しは今日泡重之内上クのく女中一同より泡よを看泡精進まぢリ脱カ五種上る

一 新すき泡は神事まけにて泡下り宰相典侍泡別當典侍泡長橋泡新内侍泡大泡乳始より泡看二種をきは此度佐々木刑部丞隠居願ニ附銀三枚下されは泡札申入泡乃取一折きん上佐々木中務家督相續願之通り仰出されは泡札申入泡看一折きん上

十三日

一 今日修日泡精進今日泡香具のよりニ

十四日

一 葵りつゝ泡内々越後ぬ里方方上らたゝ例之通り賀茂よりも葵りつゝきん上泡間とにりゝる泡表えも出る夕々泡九火入ニつゝ内侍所え泡鈴着泡くしの泡湯は行水系る今とんよあり過新すき泡は上り少將内侍泡

泡上りはまお進上

十五日

一 泡をる卯刻まへ卯半刻まへ奏聞有系内殿え大泡乳かとへ衣にて廻りは常湯所ニ泡覽をのゝ返し給ふ泡中段のまもまてもち系る程のふ泡表くし言上出湯辰刻は多く泡手水女房の泡沙さ之巳刻まへまんとつ泡覽ニ成親王泡も成らさぬ

一 内侍所えこ和く湯山おしまニ系泡はもつ本銀一枚系る關白泡えこ和く泡一重つゝ大すき泡の泡多にて着

一 太同泡え同斷泡神事解ニ系る

一 敏宮泡和宮泡孝善宮泡え泡祝は重ニ入大泡乳の多にて系る

一 親王泡ハこ取泡一所ニ泡祝出る泡表え泡祝出る非藏人えも同斷出る

一 小泡所ニ泡膳泡祝出る女中一同泡祝南をさしニ泡戴泡之泡表召さる泡くし下されゝ女中えも泡くし下されゝ泡間物泡樂もん所ニ泡一

こん出る女中衆もゆめ通りなるは一こんは戴は申刻過は祭りをするく
と濟をゆめ事は表方言上ゆ一こんゆゆるくこる夕りゆ神事解ゆ
葵うつぶせゆされは准后ゆは上りゆそあ上クゆ新内侍ゆは上りゆ花
進上

一按をゆのすきゆ當月五日ニ薄清ふてはへともは神事中ニ奉書出され
はは神事解ニて奉書出るめて度は上りニ

一親王ゆより當日ニ附ゆよを看上クゆ准后ゆは神事解ニ附ゆ看一折
上クゆ

十六日

一内侍所えは領所の竹子ゆ初尾看親王ゆは神事解ニ附ゆ看一折上クゆ
有栖川中務卿宮ゆよりゆ看五種上クゆ和宮ゆは系内はよ看五種上
クゆ女中衆はは硯多ゆ看下さるゆ廿一日までは逗留のゆ事は表口向
え仰出されは

十七日

一今日ゆ樂始ニ附内侍所えは鈴看初穂銀一枚ゆ一折系る
一親王ゆ准后ゆえは看一折宛看
一親王ゆ准后ゆは看一折つゝ上クゆ

十八日

一今日ゆ慰みゆ衣裳くふへゆふをゆは地ゆりは紫こうこんのゆ本りし
は紫ゆ多く三ツゆ帯は地ゆりは紫二すし出来クゆ
一親王ゆ准后ゆ和宮ゆは地ゆりは紫色々免されは女中衆も地ゆり紫色々
着用之ゆ一こんニては賑々こあゆは本りしはゆ多くゆくしニ成長
としゆは戴之は紫のゆ多く少將内侍ゆは戴ありは紫のゆ帯衛門内侍ゆ
は戴ありは地赤のゆ帯越後ゆは戴之准后ゆは本りし別當典侍ゆおも
し新内侍ゆ宮ゆは地赤おくはゆは念日新すきゆは戴ニ
一ゆ多くりつゝは地赤宰相典侍ゆは戴之宰相典侍ゆは桃色のゆ小袖あり

橋の地は出るはくしに成を、色伊賀の地赤駿河とのおもふ

十九日

- 一 和宮の親王宣下ニ附内侍所の鈴着一折はもつ本金百疋系る
- 一 献上三種二荷赤飯壹荷生は一折親王准后は二種一荷赤飯一多は生は一折
- 一 關白は二種一荷仁門は初は赤飯一多はこんぬ五十本つ
- 一 輪門は二方えこんぬ百本は樽代金二百疋つ、圓照寺宮の中宮寺は靈りんしの宮は赤飯一多はつ、こんぬ五十本つ、は三頭は駿河との大は乳は赤飯一多は着一折つ
- 一 按さ埜のすきは始は赤飯一多は取一折高松は乳人は赤飯一多はのしおるを大貳は同断は世話卿はまも入は赤飯一多は取一折橋本はおるははえ同断

- 一 観行院はえ同断孝順院ははしめ半多はつ、はのし知光院は蓮正院は弘誓院はえ赤飯一多ははれし
- 一 梅芳院は初半多はつ、はれし
- 一 赤飯半多はつ、三頭は赤飯一多は蓮観院は半多はつ、寂靜院は信敬院は赤飯一多は観實院は半多はつ、廣観院は初
- 一 敏宮は孝多宮は赤飯一多ははれしをの
- 一 是所より内侍所は鈴着は初尾銀一枚は親王准后はは着一折つ
- 一 下々の親王准后はは着一折宛別段はよさり取五種つ、上々の
- 一 和宮は親王は二種一荷をの
- 一 今日には祝は上和宮はは祝赤飯は吸物は重看出る女中衆はは祝は吸物は重さるは表關白は兩役三卿は世話卿著座の堂^{上脱カ}は橋本は父子は祝赤飯は吸物は重看出る
- 一 近習は硯多は赤飯小くし入出るは吸物下され無非常附堂^{上脱カ}三人は同

斷出る高松泡乳人え祝酒下され准后泡の上臈乳年寄え祝酒下され三仲間口向附ふけ取次賄頭らん使伺えし非常附使番祝酒下され用掛りえハ別段下され局え祝鉢肴廻し申上り合の肴宮泡え上

一 一所ニ致両役のしゆえ下されはきん上の赤飯りさとり次初え下され

一金百疋つゝ三頭二千疋あゝ始は雇茶くみ

一 すねくゝ三連知定としめより上るゝ返し宮泡を三百疋被下

一 御所え大すき泡初は肴一折献上

一 和宮泡え三頭泡は与る駿河との大乳泡は取一折つゝ上る

一 按を埒のすき泡初は肴一折はきん上

一 御所え三仲間をむ一折きん上

一 和宮泡え肴一折三仲間上るゝ

一 和宮泡え表向白は鉢煮しのは福とせは一重二種一荷は使ふりさた系らるゝ内々馬形のは衝立一そこは肴一折は使越後系らるゝ敏宮泡煮宮泡より取一折つゝ上りの此は所を敏宮泡えはよさをさり取は精進もちり五種内々のは多みにて系る

一 こあさかハ夢夢宮泡え玄んをの物ハ沙々無

一 御所え観行院泡より肴五種外はそこ物はきん上巳刻ころは表を陣始の也は世話卿より申入のゝ内儀のはよろしは時分仰出されは様申出る内儀より表えはよろしは事仰出されは系役は人々申口は廻りの壬生官務宣旨持系參内殿中段をいん北方よりきん上臈は渡さるゝ宮泡の局上段はははりゝ二帖臺は板まは成カの宣旨は請遊しはうちき先しクの其まゝ宣旨宮泡をせゝめらん箱へし給ふは返るゝと濟をの宮泡は札ニ成常所にては盃二献系るはとせん手ありは通り有濟をの一之は間にては祝は吸物は

重さり取にるに盃をはくをし出る

一常侍所にておす所におをはるのふをえて天酌にて盃給ふ申口にるに祝酒はくをし下されに藤は乳をえ名被下に小進と被下に申口にて祝酒はくをしいぬりをは長をしに方に盃三こん下されにはくをる有長をしに大に乳をうを著用に

一和宮はくもし成に局にて三こん盃をはくをしいぬり長橋は手をかり大に乳を奏尾張系る宮はうを著をかり長をし大に乳をつを著をかりいぬりのいぬりまを杉原十帖嶋子のおもし長橋は大に乳を金二百尾張をえをまうたに百尾同三百尾はあり始え下さるは宮は出來クのいぬり宮は方に祝を三頭駿河との大に乳を三百尾

一按を著のすきに始え二百尾宛に履おくは兒方え同斷下されに

一此所を觀行院はえをまうたに金千尾御綾一反下さる上薦は三人金三百尾正つ小進え銀二枚被下に年寄り年寄え三百尾正つまりたし也え

貳百尾正つは履九人に次し也而人え百尾宛妙香院初え百尾正つは用掛り兩人に五百尾正つり勢壹人え三百尾被下に筆頭兩人え二百尾正は世話卿も入え五百尾正つ鈴之口に下さる宮は外をたに附橋本宰相將をえ五百尾正同斷おるに侍從え三百尾正おるにえと茂丸に貳百尾正つ壽性院え五百尾正下されに
一おすへに初めて度に戴のる也とすましに鉢を硯を看を吸物にまの物九こんに局え廻し申に

廿日

一昨日和宮は親王宣下にするにと濟をの悦蓮觀院にしめを申入にてまるに一折つ進上に

廿一日

一此所に有に内侍所に法樂に小座敷え出に成よまを有に巳刻ころ和宮は還に成一そんに文こえ内に文ちみ一反に庭の木にて出來のいぬりあつめ

押小路甫子日記

一箱縫取煙草入三組てい人形一ツ入着還滂の時分橋本ぬえ
 立よりあふをのに附てみやとて一番文こ之内よもん金一枚つ
 せ煙草入一組三枚重のゆ盃ちよく入着外に青籠七種のち着系る
 さいくのは人形袖入は盃一枚觀行院ぬえ被下は巳半刻ころは機嫌
 よく橋本ぬえ成らをの一寸く慰に仕舞は覽に入の由尾張右京
 大夫系の宮ぬ子刻ころ桂ぬえ還ゆ成寅刻ころ尾張右京大夫歸り系の

廿二日

一はさい有明後日和宮ぬ石清水は系詣に付こあより多事觀行院ぬト
 一は一所に先廻り致はるう申渡ス

廿三日

一明日和宮ぬ石清水は系詣あふをのに附て今もんより宰相典侍ぬれとぬ
 供にえんをの大乳の心にを一番は文こ之内にはあふは物色に
 入上るあうも少くつは戴りを申は初夜ころ和宮ぬえ宰相典侍ぬ

能登ぬ梅も松枝は一所に系の系りのをつハ白裕あいとり三仲間
 白裕に附帶之宰相典侍ぬのとぬハ宮ぬえのちやみ精進まち五種カの
 着進上觀行院ぬえすもし二重少進初はえぬまん三百おくの右大夫は
 身立にえんをの

廿四日

一和宮ぬえらの刻は出門の所何りとくおそく成クのく卯刻は出門にあ
 ふをの

一准后ぬ朔平は門み覽所出來クのハ内に覽に成女中も系る三仲間
 門下まてにいん系の右京大夫事辰刻りへり系の
 機嫌よくは出門あふをの和宮ぬえ見舞に杉折はく和し一重は
 てんぬ一重えんをの親王ぬよりはかく和し茶は杉折に系る敏宮
 ぬよりはく和しえんをの女中よりは杉折信濃雪八重吹花上は使ハ
 取次は口上に系るこあ親王ぬ敏宮ぬのは使りちて系の女中のもは

使番より頼こ成は右京大夫に承りしへも桂袍にて色の物とめしりへこ
るは系りし由さてくは取込は賑との事承りし

一 今日小座敷にて儀奏始は當座にてあふをのくは跡にては一こん下さ
れは

一 寅半刻和宮ははするくくと還涉成は覽所は成らせのくは使の取次りへ
り系のく傳奏衆口向を言上有宰相典侍はたとぬ三仲間をするくくと歸
り系のく宰相典侍はたとぬ和宮はかつを紙紙入一組こりはりのは
りんさし一本つゝ被下は三仲間えはさふし一反は盃一枚つゝ下されは

廿五日

一 和宮はえはするくくと還涉は精進解に附はよをさり取五種上くのく

一 仁門ははとひ一品をん下のは礼に成ある橋はのくはまよをよりは系内
常涉所にて二こんのは盃首二こんめ天酌之濟をのく一はは間にては口
祝はくはし別段一寸はくはしいつるは手つらふつゝは紙入はまを

ははま多くろまんのの

一 仁門ははは杉折のくはし上くのく今日のは乳は供に系のく長橋ははは
盃下されはりへのこん出るくはる大は乳長としは大は乳うはま著用之
は認盃致ははまん下されは

一 和宮はははまやに松のはまちうへ壹つ本んをた上くのく大すきは初は
は到來としてはくはし下さるゝ

一 妻参宮はえ金まをうまんのの

廿六日

一 泉山えは代香は表はは香は花系る今日のは香具のは先へ

廿七日

一 此度思召はに伊勢両宮はは奉納はまをのくは附織物行事官出納え仰
附のくは料金廿三両一分一朱ト三匁一分五りつゝ出されは敏宮はのは
は高階安藝守めんののく山本安房守え仰附のく伊郎子故障にて十日引

こもりはかう高く高階よりてうきん仰附の敏宮泡家上臈其池をもし召出されは事世話卿廣橋をえ仰出されはまくに召されは事申出されは上の日きん來月の神事過ト仰出されは請有和宮泡石清水の系詣のちすりふに到來とて今日三頭泡大ちへらく焼置物多の物下されは宰相典侍泡いよゑのとゑ駿河とのえ鉢物少進は使て下されは

廿八日

一今日香具の陸免准后泡より重之内女中衆に下されは少將内侍泡え神供仰出されは

一夢夢宮泡との本りくは望さくにてあふをのは薬はそふあそはしは様因幡薬師え七く日之は祈禱仰付のはむく和しは廻し申入は夢夢宮泡せりくは様子泡よろしりふはつり泡つよくと言上有

廿九日

一今朝昨夜よあゝ過よりはさしこみまみにてあふをのは事はしより申入のまくに衛門内侍泡は見舞は下りはし詰をさりたり仰附のしは無人に肥後守安房守筑前介伺仰出されは晝後言上先々は同様泡二ゑとゝ追くはつり泡は成力の堀川ゑえまもし鉢着上る初夜過言上は同様泡乍はつり泡はこんまいにてあふをの寅刻言上追くはつり泡何時は急ゑんあふをのやと言上卯刻ころ駿河とのゑんをの卯刻過廣としは系りゑゑ實ハ昨夜よあゝ過比はむつりしははるう子申入の何りく追く伺有駿河とのりへり系のこの本りははるう子申入の

五月朔日

一神供少將内侍泡は系内之をふの泡もつ本金百疋を拜有朝は盃を朝りする別當典侍泡少將内侍泡能登ゑ之をふの泡祝き親王泡准后泡は